

京都市内遺跡試掘調査報告

平成18年度

2007年3月

京都市文化市民局

京都市内遺跡試掘調査報告

平成18年度

2007年3月

京都市文化市民局



写真1 中久世遺跡・2区拡張区遺構検出状況（南から）



写真2 史跡名勝嵐山検出石組遺構（北東から）

ご あ い さ つ

京都市は、平安建都から千二百有余年、永い歴史の積み重ねによって日本の文化を醸成し、その結晶である文化財を数多く保有しています。その一つである埋蔵文化財包蔵地もまた市内には多数存在し、古代から近世まで時代ごとに積み重なった遺跡は、わが国の歴史や文化を教えてくれる国民共有の貴重な財産であり、将来にわたって日本文化を発信していくうえでその基礎を成すものです。

本市では、現代に生きる私たちの生活の向上を図りつつ、先人が残した貴重な埋蔵文化財を後世に伝える責務があると考え、「保存」と「開発」の調和を図りながら、埋蔵文化財の保護に取り組んでいます。

この度、平成18年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査に関する結果報告書を作成致しました。この報告書が京都の歴史と文化財への理解を深めるために広く御活用いただければ幸いに存じます。

結びに、各調査の実施に当たり、御理解、御協力を賜りました市民の皆様と、御指導を賜りました関係機関の皆様に深く御礼申し上げます。

平成19年3月

文化市民局長 福徳久雄

例 言

- 1 本書は、京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した平成 18 年度の京都市内遺跡試掘調査報告書である。平成 18 年 1 月から 12 月まで実施した試掘調査のうち、重要な成果のあったものについて本文で報告している。ただし、試掘調査の結果、発掘調査を指導したのものについては、発掘調査報告書の刊行を待つこととし、一覧表にのみ掲載している。
- 2 試掘調査を実施した総ての地区・所在地・調査日・調査概要については、試掘調査一覧表に掲載（38～43 頁）している。なお、各章表題末尾の番号と調査一覧表の番号並びに図版の番号は対応している。
- 3 本文の執筆分担は、本文の末尾に記している。
- 4 本書に使用した地図は、本市の都市計画局発行の都市計画基本図（縮尺 1/2,500）を複製して調整したものを掲載している。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。
図版 1～13 1/8,000 図版 14～19 1/10,000
- 5 本書に使用した土壌色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』に準じた。
- 6 遺物整理にあたっては、岩本淳子・岡本沙千代・金子央・上茶谷美保・守山義幸の協力を得た。
- 7 調査及び本書作成は京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が担当し、(財)京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。



図 1 調査地区割図

目 次

	頁
I 試掘調査の概要	1
II 平安宮	3
1 中務省跡北隣接地（上京区下立売通千本東入下る中務町 486-129）	3
III 平安京左京	5
1 八条二坊五町跡（南区西九条戒光寺町 2-4）	5
IV 平安京右京	9
1 四条二坊十二町跡・壬生遺跡（右京区西院東淳和院町 30-1）	9
V その他市内遺跡	12
1 尼吹ノ谷窯跡（左京区岩倉上蔵町）	12
2 伏見城跡（伏見区桃山町立売 44 他）	15
3 烏羽離宮跡・烏羽遺跡（伏見区竹田西小屋ノ内町 48 の一部、50 の一部／ 中島秋ノ山町 133-2）	18
4 下烏羽遺跡（伏見区竹田松林町 63）	23
5 中久世遺跡（南区久世殿城町 221 他）	25
6 史跡名勝嵐山（西京区嵐山中尾下町 23-5）	29
7 長岡京左京一条四坊四・五町跡・東土川遺跡（南区久世東土川町 350-12）	31
8 長岡京左京七条四坊八町跡（伏見区淀桶爪町 634-1 他）	35
VI 試掘調査一覧表	38
報告書抄録	44

図 版 目 次

- 図版 1 平安宮跡
- 図版 2 左京 北辺・一・二・三条 一・二坊
- 図版 3 左京 北辺・一・二・三条 三・四坊
- 図版 4 左京 四・五・六条 一・二坊
- 図版 5 左京 四・五・六条 三・四坊
- 図版 6 左京 七・八・九条 一・二坊
- 図版 7 左京 七・八・九条 三・四坊
- 図版 8 右京 北辺・一・二・三条 三・四坊
- 図版 9 右京 北辺・一・二・三条 一・二坊
- 図版 10 右京 四・五・六条 三・四坊
- 図版 11 右京 四・五・六条 一・二坊
- 図版 12 右京 七・八・九条 三・四坊
- 図版 13 右京 七・八・九条 一・二坊
- 図版 14 史跡名勝嵐山・御所ノ内町遺跡・常盤東ノ町古墳群・小倉山城跡・中の谷窯跡・紫野斎院跡・上京遺跡・相国寺旧境内
- 図版 15 松蔭町遺跡・御土居跡・修学院遺跡・御土居跡・北白川追分町遺跡・小倉町別当町遺跡・高台寺境内（雲居寺跡）・六波羅政庁跡・法住寺殿跡
- 図版 16 安土遺跡・山科本願寺跡・山科本願寺南殿跡・中臣遺跡・伏見城跡・醍醐寺子院跡・伏見城跡・史跡名勝嵐山
- 図版 17 福西古墳群・中久世遺跡・大藪遺跡・上久世遺跡・唐橋遺跡・長岡京跡・淀城跡・深草遺跡
- 図版 18 烏羽離宮跡・烏羽遺跡・下烏羽遺跡
- 図版 19 長岡京跡

表 目 次

- 表 1 年次別試掘調査実施件数表…………… 1
- 表 2 試掘調査一覧表…………… 38～43
- 表 3 遺物概要表…………… 43

I 試掘調査の概要

1 京都市内の埋蔵文化財行政

京都市では、663箇所に及ぶ周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡という。）を所管し、その範囲内で行われる土木工事については、遺跡の重要度と工事規模に応じて「慎重工事」・「立会調査」・「試掘調査」・「発掘調査」の4種の行政指導を行ってきた。その業務については、昭和55年の設立以来、京都市埋蔵文化財調査センター（以下、「センター」という。）が担当してきたが、平成18年4月1日付けで文化財保護課（従来、埋蔵文化財以外の文化財を担当）と統合され、新たに文化財保護課として埋蔵文化財行政を担当することになった。

4種の行政指導に基づいて実施される調査には、国庫補助による調査と原因者負担による調査があるが、立会調査・試掘調査についてはそのほとんどを、発掘調査はその一部を国庫補助事業として実施している。国庫補助事業による立会調査と発掘調査は（財）京都市埋蔵文化財研究所（以下、「埋文研」という。）へ委託し、その成果は、毎年、別冊の報告書により報告されている。

本報告書は、平成18年1月～12月にセンターないし文化財保護課が実施した、国庫補助による試掘調査を取りまとめたものである。文化財保護課で実施する試掘調査は、届出や通知を受けた工事予定地内における遺跡の有無、残存状況やその範囲を把握し、遺跡が良好に遺存し、工事がその遺跡を破壊するのであれば発掘調査を指導し、設計変更などにより遺跡の保存が可能であれば開発者に対して遺跡保護の措置を指示するなど、文化財保護行政上重要な業務であり、現在3名の技師がこの調査に従事している。

平成18年1月～12月に文化財保護法に基づいて提出された届出（文化財保護法第93条）・通知（同法第94条）件数は、総数で1,155件になる。これは前年比で155件増（15.5%増）

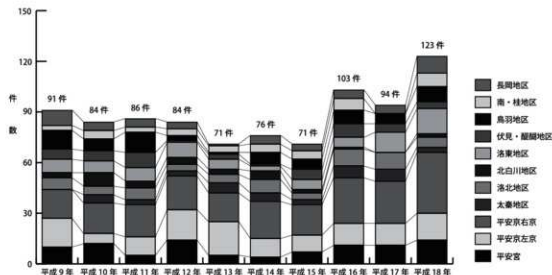


表1 年次別試掘調査実施件数表

であり、近年の景気上昇を背景にした事業増が継続している。また、今年の届出・通知の増加には、本市都市計画局が導入を予定している、建築物の高さ規制に対する駆け込み工事もあるものと推測される。この届出・通知に対して、文化財保護課は立会調査 607 件（前年 538 件、12.8% 増）、試掘調査 119 件（同 105 件、13.3% 増）、発掘調査 11 件（同 17 件、35.3% 減）、慎重工事 388 件（同 340 件、14.1% 増）の指導を行った。

この届出・通知の増加を受けて、センター及び文化財保護課が実施した試掘調査も、123 件と前年に比して大きく増加している。例年より平安京左京四条の調査が目立つのは、上述の高さ規制が大きく作用しているものと思われる。また、大型ショッピングセンターの出店に牽引された平安京右京六条三・四坊周辺の調査が多いのも、ここ数年の傾向を維持している。一方、近年極めて少なかった工場新築に伴う調査が増加を見たのは、好景気を反映した現象であろう。

2 平成 18 年の試掘調査概要

文化財保護課及び埋文研では、京都市域を 11 のエリアに区分（図 1 参照）している。平成 18 年の試掘調査を地区ごとに分けると、平安宮地区 14 件、平安京左京地区 16 件、平安京右京地区 36 件、太秦地区 3 件、洛北地区 6 件、洛東地区 15 件、伏見・醍醐地区 4 件、鳥羽地区 9 件、長岡地区 10 件である。この内の 25 件（No.2・4・24・29・40・43・46・48・50・51・54・56・60・73・75・77・101・103・104・105・110・113・115・118・123）については発掘調査を指示し、埋文研が 18 件（No.2・4・24・29・40・46・48・60・73・75・77・103・104・105・113・115・118・123）、古代文化調査会（代表 家崎孝治）が 3 件（No.51・101・110）、関西文化財調査会（代表 吉川義彦）が 1 件（No.54）、（株）日開調査設計コンサルタント（代表取締役社長 小林大太）が 1 件（No.43）の調査を年内に実施した。

実施された発掘の中から特に顕著な調査成果を挙げると、平安京左京四条三坊四町跡では平安時代の圃池と中世の鋳物工場の跡を検出（No.43）。平安京右京五条三坊十四町で、弥生時代後期の方形周溝墓多数を検出し、西京極遺跡の範囲を見直す資料をもたらしたほか（No.4）、従来の西京極遺跡の範囲内でも弥生・古墳・奈良時代の保存状態良好な建物跡を多数見出した（No.75・77）。福西古墳群では新たに 32 号墳を検出（No.24）。中久世・大藪遺跡でも方形周溝墓を検出した（No.123）。

また、工事の掘削深が試掘で確認した遺構面より十分に浅いため、又は設計変更で遺構面より浅くして当面の保存が図られたため、発掘調査に至らなかった例が 14 件（No.1・15・49・57・58・67・103・104・109・112・113・115・117・119）あり、No.1・15・67・109・119・112 については、本書本文中で報告する。

また、遺構保存はできなかったが本文中で報告した事例として、池汀推定ラインを検出した鳥羽離宮跡（No.16）があるほか、河川の擁壁崩落に伴う緊急立会で多数の古墳時代遺物を回収した（No.116）がある。さらに過去の遺跡パトロール等によって表採遺物が報告できる量の蓄積を見た尼吹ノ谷窯跡の報告も掲載している。

（堀 大輔）

II -1 平安宮中務省跡北隣接地 No. 33

1 はじめに

調査地は、上京区下立売通千本東入下の中務町 486-129 で、浄福寺通と榎木町通の交差点南東角に位置する。当地は、平安宮の復元案に従うと、朝廷の事務全般を扱う中務省と内裏との間の広場に位置する。

今回、当該地で事務所兼共同住宅の建設が計画されたため、平成 18 年 4 月 21 日に東西方向の調査区を設定して試掘調査を実施した。調査の結果、聚楽土の採取を目的とした土取穴中から平安時代の遺物を検出したため報告する。調査面積は 18 m²である。

2 層序と遺構

層序 土層の堆積は単純で、地表下約 1 m までが近世の整地層、その直下に地山の可能性が高い赤褐色粘質土（厚み約 10 cm）が認められる。この粘質土の下層には、聚楽土と呼ばれる褐色粘質土や明黄褐色粘土が続く。浄福寺通に近い調査区西半部は、上述の層序を良好に確認することができるが、東半部は土取穴などにより地山面が大きく掘り下げられていた。

土取穴 調査区東端で検出した。東西幅 4.5 m、深さ 1.2 m 以上の規模をもつ。褐色泥砂と暗褐色泥砂の 2 種類の埋土からなり、炭に混じって焼けた瓦や平安時代の土師器、緑釉陶器などがまとめて出土した。これらの遺物は土壌埋め立てに伴う二次的な混入品の可能性が高いが、近世の遺物の混入も認められず、古い土取穴の可能性もある。



図2 調査位置図 (1:5,000)

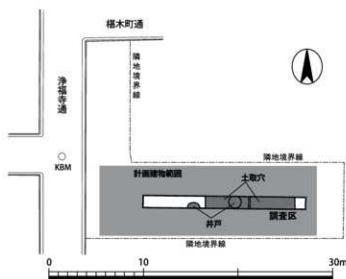


図3 試掘調査区位置図 (1:400)

3 遺物 (図5)

瓦 軒丸瓦 (10) は、複弁蓮華文で、楔形の間弁が配された平城宮 6291A 型式である。その他土取穴からは平・丸瓦 85 点が出土している。

土器 緑釉陶器蓋 (1)・陰刻花文椀 (3)・円盤高台の皿 (4)、蛇ノ目高台を持つ素地椀 (5)、須恵器環 B (2)、土師器皿 A (6)・甕 (7)、高坏 (8)、透かし文のある黒色土器 B 蓋 (9) を含む 193 点が土取穴から出土している。平安京編年の I 期中～II 期中 (8 世紀末～9 世紀中頃) に相当する。

4 まとめ

この土取穴が平安時代に遡ると、宮内でも広場のな空間地では壁土等が採取されたことになり、今後の類例の増加が望まれる。

(馬瀬 智光)

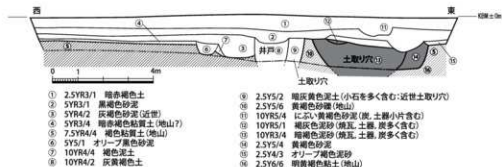


図4 試掘調査区断面図 (1:150)

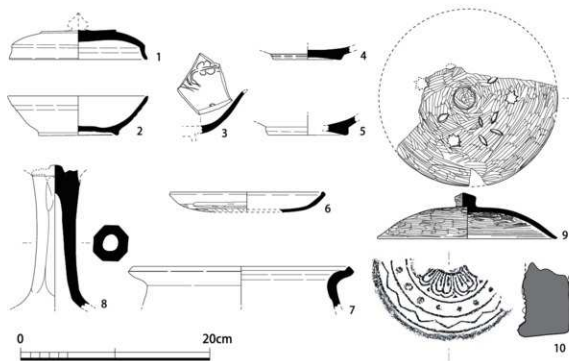


図5 出土遺物実測図 (1:4)

III -1 平安京左京八条二坊五町跡 No. 1

1 調査経過

調査地は、京都市南区西九条戒光寺町 2-4 に所在する約 2100 m² の戒光寺児童公園である。この調査は、本市建設局水と緑環境部緑政課が施設の老朽化の目立つ公園を再整備するに際して、事前に遺跡の有無・深さなどを確認する目的で平成 18 年 1 月 27 日に実施した。

当該地は、平安京の条坊復元では、左京八条二坊五町の南東部に位置し、敷地の東側を現在の堀川通と重複して南北に堀川小路が通り、公園の東端寄りが小路の西側溝及び西築地推定域に当たる。この五町には平安時代後期、藤原顕長が居住し、仁平元年(1151)に邸宅が焼失、顕長は東隣の十二町に移住し、その後は平安時代末期に至り平重盛が邸宅「小松殿」を建設したとされる¹⁾。また、鎌倉時代以降は、町名の由来にもなっている戒光寺を律宗の入宋僧墨照



図6 調査位置図 (1:5,000)

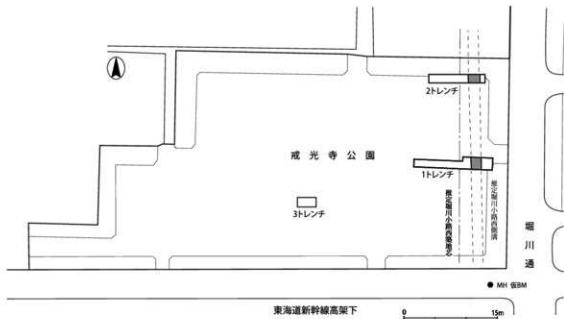


図7 トレンチ位置図 (1:600)

が造営するが、応仁元年(1467)の戦乱で焼亡、一条小川さらに京極の東と境内地を代えながら正保二年(1645)に東山の泉涌寺の塔頭となり現在までその法灯を伝えている²⁾。

調査は、先ず堀川小路の検出を目的として、公園の東寄りに東西方向のトレンチ(1トレンチ)を設けた。その結果、現地地表下1.2mで中世の瓦を多量に含む南北方向の溝を検出した。位置的には堀川小路西側溝と見て良いが、時代は若干新しく、その下層にも調査した範囲では、平安期の溝は認められなかった。この南北溝の続きを確認するために、北へ約12m離れた公園の北端寄りを調査した(2トレンチ)ところ、地表下1.3mで溝を検出し北へ続くことを確認した。公園整備自体は、深い掘削を伴わないため、2トレンチでは遺構の掘り下げは行わず、検出に止めた。さらに公園の中央あたりで地山確認のための調査(3トレンチ)を行い調査を終えた。

2 遺構・遺物

調査地の基本的な層序を1トレンチを中心に述べる。30cm程の厚みがある公園整地土の下に、

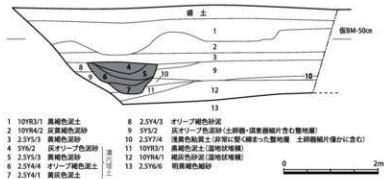


図8 1トレンチ南壁土層断面図(1:80)



写真3 1トレンチ南北溝瓦出土状況(北東から)

やはり公園造成にかかわると思われる、木炭や染付破片を含むが良くこなれた整地層が三層認められる。その下層、地表面から1.2mで土師器や須恵器の細片を含む整地層が40cm程の厚みで堆積する。この整地層を掘り込んで造られたのが前述の南北溝である。さらにその下層には、10cm程度ではあるが非常に硬く締まった浅い黄色粘質土による整地層(土師器細片を僅かに含む)が認められた。この整地層は、その下に30-40cmの厚みがある泥土や砂泥による湿地もしくは池状堆積があることから、これら軟弱地盤を埋め立てるための造成土と考えられる。

池状堆積の下層は、当該地の基盤となる明黄褐色細砂が地表下約2mで検出される。

南北溝 1トレンチから2トレンチまで南北に15m以上続くことを確認した。溝の幅は約1.5m、深さは約0.7m、断面形は逆台形を呈し、溝内の堆積層は4層に分層出来る。この堆積層のうち、上から二番目の黄褐色泥砂層からは、完形に近い軒瓦を含む瓦類が多く出土し、築地などに葺かれていた瓦を一括で投棄したものと考えられる。

溝内からは瓦類がコンテナに10箱分出土し、土師器・須恵器・緑釉陶器の小破片も数点出土

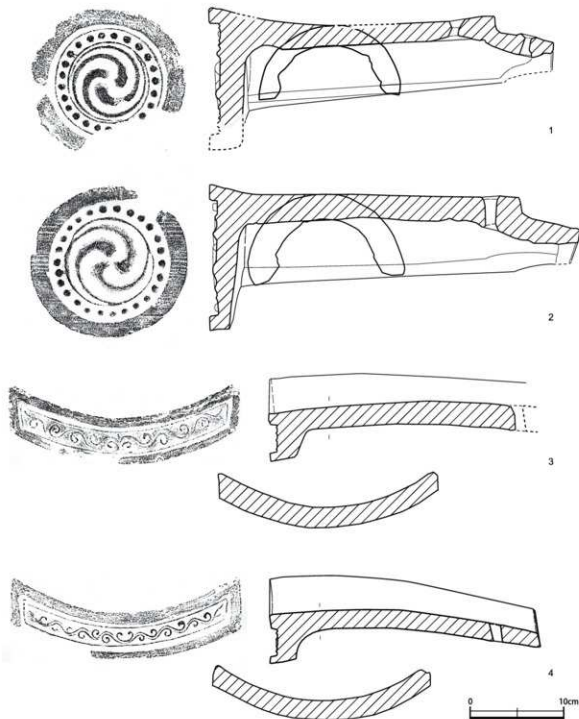


図9 出土軒瓦実測図 (1:4)

した。ここでは出土した軒瓦について報告する。

軒丸瓦は6点出土し、2種類に分類できる。(1)は、右巻三巴文軒丸瓦で24個¹⁾配する珠文の内外に細い圈線を巡らす。丸瓦部は完形で全長が36.4cm、瓦当面の直径は15cmある。瓦当面にはハナレ砂が多く付着し、同文2点が出土した。(2)は、(1)よりやや大振りなほぼ完形の右巻三巴文軒丸瓦で全長が39.2cm、瓦当面の直径が15.5cmある。外区には珠文26個を配し、珠文1個に范キズが認められ同范認定が容易である。

軒平瓦は全部で8点出土し、2種類に分類できる。(3)は、1点のみ出土した中心飾りに上向きの蕾を持つ均整唐草文軒平瓦で、唐草文は中心から脇に向かって5反転し、5転目の唐草からは脇区上方に向かって子葉が伸びる。瓦当面の幅は、24.2cmあり全長は27.7cm以上ある。顎端部は面取りし、顎部から平瓦部凸面にかけては縦方向にケズリ調整し、凸面の瓦当寄りに凹型成形台の圧痕が残る。(4)は完形品の均整唐草文軒平瓦で、中心飾りに上向きのC字形を置き、左右に6反転する唐草を配し、6反転目から脇区上方に向かって子葉が伸びる。瓦当面の幅は24cm、全長は28.8cmある。瓦当外周上部を軽く面取りし(面取りしない瓦もある)、顎部は横方向、平瓦部凸面は縦方向にケズリ調整する。同范が7点出土し、内1点は、平瓦部を斜め45度にカットした隅瓦である。同范と見られる瓦が栢ノ柱遺跡³⁾、東福寺⁴⁾などで出土している。これらの瓦は、鎌倉時代後期から室町時代前半の13世紀代と考えられる。

3 まとめ

今回の調査では、中世の瓦を多量に含む南北溝を検出した。既に述べたように検出した位置からこの溝は、堀川小路の西側溝に推定されるが、平安時代まで遡るとは考えにくい。それはこの溝が、土師器や須恵器の破片を含む整地層を掘り込んで造られていることや、さらにその下層にも整地層が認められるからで、むしろ、かつてこの辺りにあったとされる鎌倉時代創建の戒光寺の伽藍造営に合せて、堀川小路や側溝の整備が行われたと考えるのが妥当である。調査の契機となった公園整備では、遺構面を荒らすような工事も無いため、戒光寺本体の解明は将来に期待するものである。(長谷川 行孝)

註

- 1) 山田邦和「左京と右京」『平安京提要』(財)古代学協会・古代学研究所角川書店1994年
- 2) 東山区泉涌寺の項目『京都市の地名』平凡社1979年
- 3) 南孝雄「IV 栢ノ柱遺跡」『京都市内遺跡発掘調査概報』平成16年度京都市文化市民局2005年
- 4) 長谷川行孝「瓦」『東福寺防災施設工事・発掘調査報告書』大本山東福寺1990年

IV -1 平安京右京四条二坊十二町跡・壬生遺跡 No. 67

1 はじめに

調査地は西大路通・四条交通差点の北東，右京区西院東淳和院町 30-1 である。右京四条二坊十一～十四町は淳和天皇の離宮淳和院（西院・南池院）に当たり，過去に十三町南西部で行われた発掘調査では，淳和院内に設けられた鑄銅・漆工工房と思われる建物群を検出している¹⁾。

調査地の西半には薬局が，東半にはアパートが建っていたが，今回これらを解体してパチンコ店を新築することになったため，平成 18 年 5 月 17 日に試掘調査を実施した。調査面積は 35 m² である。

2 層序と遺構

層序 層序は単純で，上から現代盛土・旧耕土・地山である。1Tr. では旧耕土層がなく，地山直上まで現代盛土が及ぶ。地山は砂礫を基本とした流水堆積である。地山検出レベルは，道路境界の北部を仮ベンチマーク（KBM）とした時，KBM-0.75m である。遺構は 2Tr. 及び 3Tr. の地山面上で，柱穴 3 基，土壇 2 基，小ピット 2 基を検出した。

柱穴 1～3 2Tr. で柱穴 1・2 を，3Tr. で柱穴 3 を検出した。砂礫の地山を掘り込んで成立しており，いわゆる黒ボク土を掘形埋土とする。掘形は隅丸方形を呈し，北側の柱穴 1・3 で一辺約 120cm，南の柱穴 2 で一辺約 90cm を測る。柱当たりは径 35～40cm で，柱穴 2 では柱が抜き取られた痕跡も確認した。また，柱穴 1 で確認したところ，検出面から掘形底までは 55cm を測る。柱穴 3 はやや埋土の質が異なる



図 10 調査位置図 (1:5,000)



写真 4 2Tr. 遺構検出状況 (南から)

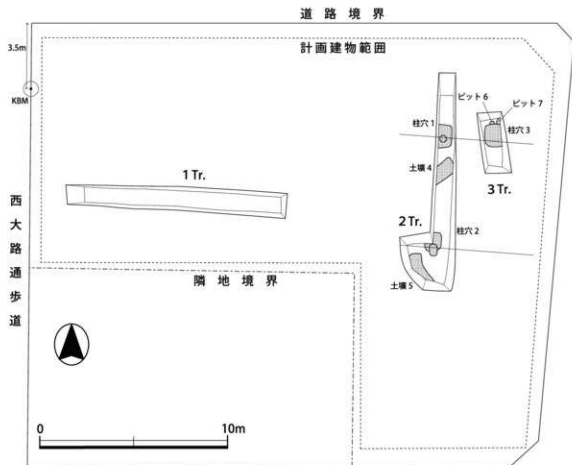


図 11 調査区位置及び検出遺構平面図 (1:200)



図 12 2 トレンチ西壁土層断面図 (1:100)

ため、別の遺構である可能性も残るが、これらが一つの建物跡だとすると、柱間々距離 2.8～2.9m の東西棟に復原できる。

土壌 4 柱穴 1 と 2 の間で検出した。短辺 80cm、長辺 140cm 以上の隅丸長方形で、北東-南西方向に主軸をもつ。柱穴と同じ黒ボク土を埋土とする。

土壌 5 柱穴 2 の南で検出。中世以降のものであるが、出土遺物が細片で年代の特定は難しい。

3 まとめ

今回の試掘で検出した掘立柱建物跡は、年代を特定する遺物には恵まれなかったが、掘形の形状から見て平安時代前半のものであり、大きさも淳和院のものとも遜色ない。また、当該地では砂礫面で遺構が良好に成立、遺存することが判明したのも成果の一つに挙げられる。1Tr.

では遺構を見出さなかったため、掘削当初は削平されたものかと考えたが、砂礫面の検出レベルは2・3Tr.と変わらないため、たまたま遺構のないところにトレンチを設定したに過ぎず、敷地全域で遺構面が良好に残っているものと推定できる。

なお、本件については、建物基礎の設計変更によって遺構の大部分が地下保存されることになったため、本格的発掘調査の実施は見送ることとなった。 (堀 大輔)

註

- 1) 吉川義彦『淳和院跡発掘調査報告 平安京右京四条二坊』関西文化財調査会、1997年



写真5 3Tr. 遺構検出状況(南から)

V - 1 尼吹ノ谷窯跡

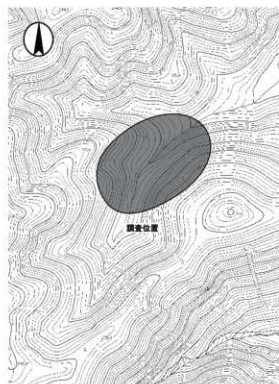


図13 調査位置図 (1:5,000)

1 はじめに

尼吹ノ谷窯跡は、左京区岩倉上蔵町の尼吹ノ谷の下流で平成7年6月18日に地元の小学生により、緑釉陶器の素地が採取されたことを受け、京都市埋蔵文化財調査センターが同年の7月11日、31日に踏査、発見した窯跡¹⁾である。

その後、京都大学考古学研究会が本市の発見した場所の上流で新たに1基の窯跡を発見²⁾している。2箇所とも窯本体ではなく、狭い谷筋での灰原の検出にとどまるが、近年多発する集中豪雨の影響を観察するために、平成8年1月12日、平成12年6月5日、平成14年7月1日、9月19日、平成15年7月15日、平成17年3月30日に踏査を実施した。

2 採集遺物

沢採集遺物 蛇ノ目高台の皿(1,2,3)・椀(4)、輪高台の皿(5～12,19)・椀(13～18)、匣鉢(20)、瓦塔部品(21)を検出した。19は直接重ね焼きを示している。輪高台の皿は、外底面の削りが浅いため、底部の器厚が8mmを越えるものも多い。短い口縁部が上方に屈曲し、屈折部内面に太い沈線が巡るものが多い。

1号灰原 輪高台の皿(22～25)には、浅く水平に延びる側壁から短い口縁部が上方に屈曲するもの(24)と、やや深めで内湾ぎみの側壁をもつもの(25)の2種類がある。椀(26～28)には、蛇ノ目高台(27)と輪高台(28)の2種類がある。

2号灰原 須恵質の蓋(29)、軟質緑釉陶器の蓋(30)、須恵器環A(31～33)、須恵質の椀(34)、壺口縁部(35)、糸切り円盤状高台の耳皿(36,37)、円盤状高台の椀(38～40)があり、口縁端部が短く外上方に屈曲するのが特徴である。蛇ノ目高台の椀(41,42)の口縁端部の形状は輪高台と同じである。輪高台の皿(43～48)は口縁部の形状等が、1号灰原と共通している。輪高台の椀(49～55)の器形は、円盤状高台や蛇ノ目高台の椀と共通する。42や48は直接重ね焼きを示しているが、37の口縁部に「ノ」字状に残る胎土目の痕跡がある。

これらの遺物のほとんどは、平安京編年のⅡ期中(9世紀後葉)を中心とする時期に収まる。さらに、須恵器壺・環・蓋・椀をはじめ、瓦塔までも生産されていたことが判明した。

3 まとめ

平成7年当時は緑釉陶器や素地を焼成する窯跡と想定したが、無高台の須恵器環・椀、瓦塔のような特殊な製品も焼成される複合的な性格の窯であることが分かってきた。(馬瀬 智光)

註

1) 馬瀬智光「尼吹ノ谷窯跡」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成7年度』(京都市文化市民局 1996年)

2) 高倉葉子ほか「岩倉尼吹ノ谷窯跡調査報告」『第48とれんち』(京都大学考古学研究会 1997年)

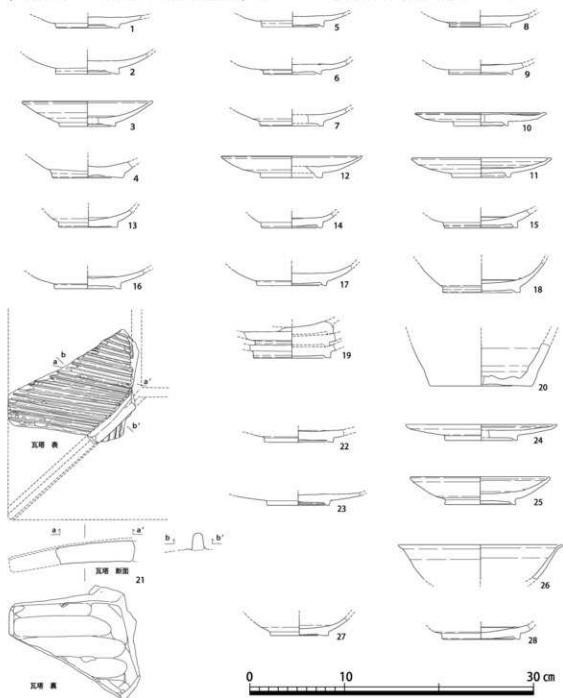


図14 採集遺物実測図(1:4)

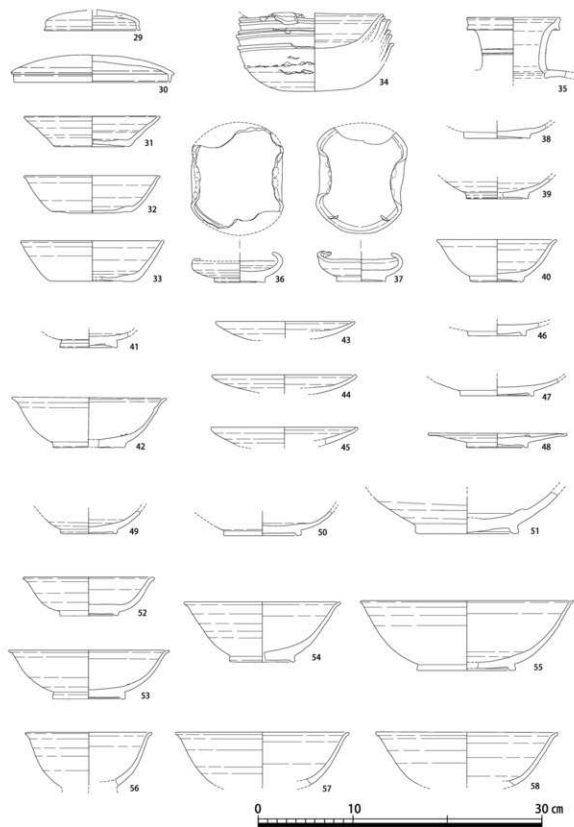


図 15 採集遺物実測図 (1:4)

V-2 伏見城跡 No.13

1 はじめに

調査地は、伏見区桃山町立売 44 地で、立売通から北に延びる通路と、立売通に対して 5 m 以上高い桃山町鍋島に所在する高台部分で構成されている。この敷地は、文禄元年（1592）に豊臣秀吉が築き始めた伏見城跡に含まれており、『伏見城御城郭并屋敷取之図』に従うと、高台側は浅野但馬守の屋敷地、立売通に面した部分は町屋となっている。

今回、集合住宅の建設に先立ち、高台部分における伏見城期の遺構の残存状況と、この高台の形成過程を確認する目的で 8 箇所の調査区を設定して試掘調査を実施した。調査は、平成 18 年 2 月 8 日、3 月 6 日、7 日の 3 日間で、調査面積は 189 m²であった。

2 調査と遺構

高低差著しい当該地は、桃山町鍋島と桃山町立売の町境付近に石垣の存在が想定されるものの、石垣の有無を確認できる敷地境界付近は近隣への安全対策上困難であり、進入路も工事車両の通過上、調査区の設定が不可能であることから、石垣の確認調査は断念した。

また、調査地には、昭和 50 年代まで 4 階建ての鉄筋建物が 3 棟建っていたことと、これらの建物の基礎撤去時の掘削により、設定した 8 箇所の調査区の内、2 箇所を除いて遺構面の大半が失われていた。

築城期造成 この高台部分の造成過程を示す痕跡は、1 T、6 T、8 T の 3 箇所でも認められた。また、敷地北東部に設定した 4 T では現地



図 16 調査位置図 (1:5,000)



写真 6 8 T 土層堆積状況 (南東から)

表下 100 cm、北西部に設定した 7 T では同 50 cm でそれぞれ明黄褐色砂礫の地山が認められる一方、敷地南端の 8 T では現地地表下 280 cm で地山が確認されることから、築城前の旧地形は南下がりの傾斜地であったことが分かる。この傾斜地を現在の高台に変更した造成過程の痕跡を最も明瞭に残す 8 T の土層断面から述べると、現地地表 80 cm で伏見城期の整地土層上面に達する。この面から現地地表下 280 cm の黄褐色砂礫層に至る厚さ 200 cm の間に 16 層以上の南に傾斜する土砂が堆積している。これらの土砂は粘質土と砂礫層が交互に積み上げられており、山科本願寺跡の土塁の構築方法¹⁾に類似している。砂礫層は、水の浸透による盛土の崩落を和らげる目的があると考えられる。8 T の南端から南 6 m のところに高台と南側の隣接地を分かつ高さ 2.2 m のコンクリート擁壁があるが、築城当時に高台を護岸する目的で存在したと考えられる石垣を踏襲

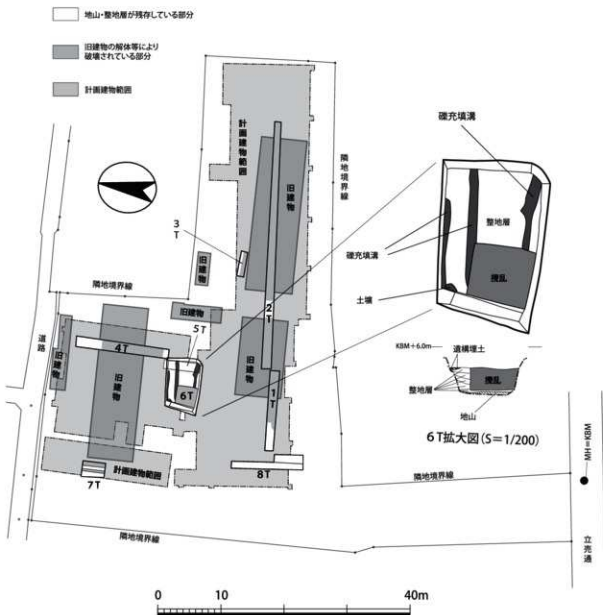


図 17 試掘調査区位置図 (1:600)・6 T 拡大図 (1:200)

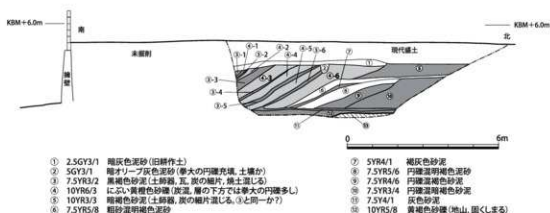


図 18 8 T 西壁土層断面図 (1:150)

したものであろうか。

6 T 検出遺構 2月8日に設定した5 Tを拡張した6 Tは現地表下65 cmで整地土上面に達する。この整地土層上面で礫を充填した幅30～60 cm、深さ10～25 cm、断面U字形の東西溝3条を検出することができた。特に南端部で検出された礫充填溝中からは織豊期の瓦片がまとまって出土した。また、これらの礫充填溝よりも新しく攪乱土壌よりも古い、幅55 cm、深さ20 cmの浅い皿形の土壌が6 T北西端で検出され、埋土中から土師器小片が出土している。

3 遺物

瓦 6 Tの礫充填溝中から出土している他、8 Tの造成土中からも認められる。8 Tでは③～3層から3点、⑤層から2点検出された。小片のため時期は明確ではないものの、聚楽第や伏見城でよく認められる瓦片と類似している。

土器・陶磁器 8 Tの地山直上の⑫層中から土師器小片3点と、瓦器羽釜の脚部1点が出土した他、⑤層から土師器小片や染付片等が出土している。

4 まとめ

立売通からみると5 m以上、南側の隣接地とも2.2 mの比高差をもつ高台の造成時期を考えるとき、8 Tの造成土中に瓦片や染付片が含まれることから、慶長元年(1596)に起きた慶長の大地震後の秀吉による再築時や、慶長5年(1600)の関ヶ原前哨戦後の家康再築時が想定できる。

(馬瀬 智光)

註

- 1) 近藤知子「山科本願寺跡2」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999年 162～165頁)に山科本願寺の土塁築造方法が記述されている。

V-3 鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡 No.15・16



図19 調査位置図 (1:5,000)



写真7 No.15 調査地北端地業検出状況 (北から)

1 調査経過

この報告は名神高速道路京都南インターチェンジの南側、国道1号線の東側 (No.15) と西側 (No.16) の2箇所で実施した、共に事務所建築に伴う試掘調査のものである。この辺りは、鳥羽上皇が宇治の平等院を模して保延2年(1136)に造営した勝光明院の推定地であり、近年の発掘調査によりその成果の蓄積が多い所でもあるため、狭小な調査ではあったが報告を行う。

2 No.15 地点

調査地の東に隣接する3箇所の敷地で以前発掘調査(鳥羽離宮第43・45・65次¹⁾)が行われ、南北3間・東西1間の礎石建ち建物とその両脇から南及び北へ延び、さらに西へ折れ曲がる雨落溝と石垣の痕跡、その内側に石積みによる地業によって念入りに施工された建物跡の縁石やその抜き跡などが発見されている。これらの成果から、この一画は石垣によって周囲より一段高く盛り上げ、石垣に沿って四方に築地もしくは透塀を巡らせ、その東面に門を構え、内側に建物を建設した施設であることが分かってきた。現在では、この施設を鳥羽上皇が集めた聖経や典籍など希代の宝物を取めた勝光明院の経蔵とする説が有力である²⁾。

本調査地内では、上述の遺構の続きが発見されることが明白なため、試掘調査によって遺構面の深さを測り、計画建物の基礎が底に達しないよう行政指導することを目的に調査を実施した。

調査は、計画建物が南北に細長いため、その計画に合わせて敷地の中央を幅1mで南北に約

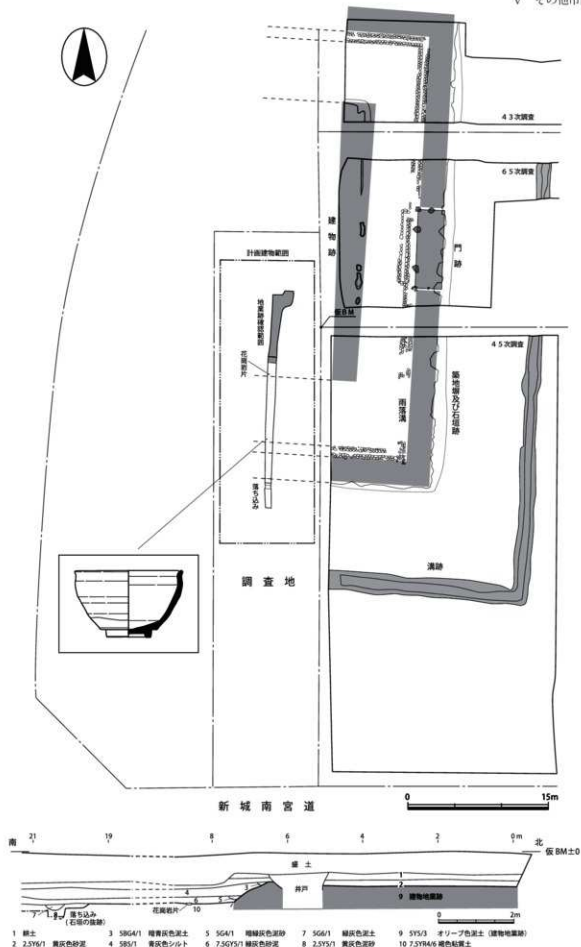


図20 No15 調査地トレンチ位置図 (1:400)・土器実測図 (1:4)・西壁土層断面図 (1:100)



写真8 No.15 調査地遺物出土状況（南東から）

22mにわたってトレンチ調査を行った。その結果、トレンチの北端から南へ約7mまでは、地表下0.9mで拳大の河原石を敷き詰めた建物の地業跡を認めた。この遺構面の直上までは、盛土・耕土・床土といった単純な堆積層である。この7m地点より南側は、遺構面が約50cm下がり、そのままほぼ水平にトレンチ南端近くまで続く。この一段下がった遺構面は均質な褐色粘質土をベースとし、比較的強く締まっておりトレンチ北端から8.8m地点で10cm角程度の薄く割れた花崗岩1個と20m地点で遺構面がさらに一段下がる落ち込みを発見した。

隣地調査の成果から、花崗岩片は経蔵建物の緑石の断片、落ち込みは石垣の段差として捉えることが出来る。なお、隣地では良好に残存していた

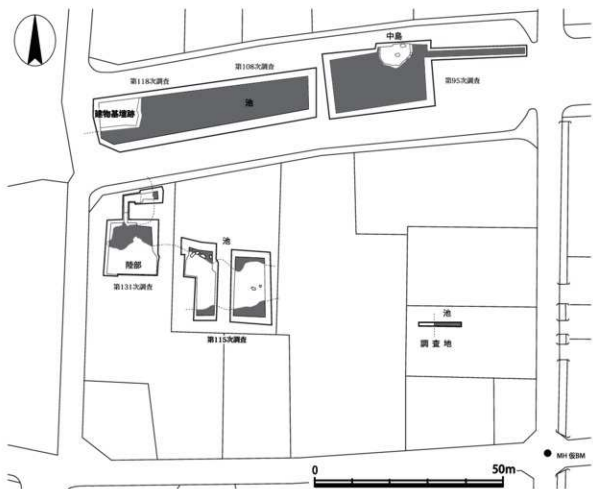


図21 No.16 調査地トレンチ位置図 (1:1,000)

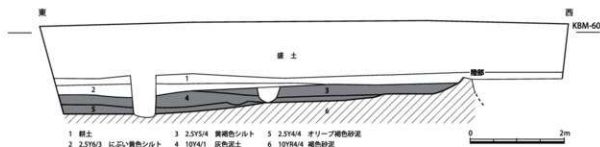


図 22 No.16 調査地南壁土層断面図 (1:80)

河原石を並べた雨落溝は発見出来ず、その推定域からは美濃焼の天目茶碗片 1 点が出土した。また、隣地の調査では、雨落溝周辺から多くの瓦が出土しているが、当該地では摩耗した瓦の小片が数点出土しただけであった。

今回の調査では、推定勝光明院経蔵の建物地業跡を検出し、その残存状況が良好であることを確認した。また、計画建物も遺構保存の出来る基礎掘削深度に止めた設計となった。

3 No.16 地点の調査

No.15 地点から南西方向へ約 200m 離れた所での調査である。当調査地の北方から北西にかけては、従来から鳥羽離宮北殿推定地として数次にわたる発掘調査



写真 9 No.16 調査地全景 (東から)

が行われ、円形の中島と推定される築山や池汀、景石などが発見されているエリアである。特に鳥羽離宮第 118 次調査では、凝灰岩の切石で基壇化粧したと考えられる建物基壇跡の南東隅を発見し、近くの池からは鍍金を施した飾り金具が出土したことから、北殿の東に造られた勝光明院の一画であろうと推定されるに至っている³⁾。

この建物基壇跡の南は池になるが、第 115 次⁴⁾ 及び 131 次調査⁵⁾ では、その対岸と見られる陸部が東に細長く突き出るような形で見つかっており、その形状から岬もしくは島に推定され、池の汀が複雑に入り組む変化に富んだ園池を形成していたことが次第に判明してきている。本調査地は、この東に細長く突き出る岬もしくは島から 50m ほど東に離れた延長上に位置している。

調査は、敷地の奥から東に向かって東西方向に 11m のトレンチを設けて行った。分厚い盛土の下に耕土が残り、調査地の西端寄りではその直下、現地表面から 1.15m 下で比較的堅い褐色砂

泥層が認められた。この褐色砂泥層は、東に向かって緩やかに落ち込み、その埋土に灰色泥土が堆積していたことから、池の汀を検出したと考えた。トレンチの西端の陸部と東端の池底との高低差は70cmほどあるが出土遺物が全くないことから、はたして鳥羽離宮期の池汀であるのか定かでないが一応、鳥羽離宮期の池の可能性有りとして報告しておく。(長谷川 行孝)

註

- 1) 鈴木久男「第43次発掘調査概要」「第45次発掘調査概要」「鳥羽離宮跡」昭和53年度京都市文化観光局1979年
鈴木久男「第65次発掘調査概要」「鳥羽離宮跡調査概要」昭和55年度京都市文化観光局1981年
- 2) 鈴木久男「鳥羽離宮勝光明院の経蔵」『杉山信三先生米寿記念論集 平安京歴史研究』杉山信三先生米寿記念論集刊行会1993年
- 3) 鈴木久男・前田義明「鳥羽離宮跡第118次調査」『京都市埋蔵文化財研究所調査概要』昭和60年度(財)京都市埋蔵文化財研究所1989年
- 4) 鈴木久男「第115次調査」『鳥羽離宮跡調査概報』昭和60年度京都市文化観光局1986年
鈴木久男「第131次調査」『鳥羽離宮跡調査概報』平成元年度京都市文化観光局1990年

V-4 下鳥羽遺跡 No. 109

1 はじめに

調査地は伏見区竹田松林町 63 に所在する田地である。西隣地で昭和 61 年に行った発掘調査では、敷地北端で古墳時代後期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出され、南は低くなって湿地となることが判明している¹⁾。今回の敷地も当然同様の状況であると予想されたため、事業主は遺構面に抵触しない浅い基礎の建物を計画し、文化財保護課は、遺構面の深さを改めて確認するための試掘調査を実施することになった。調査実施日は平成 18 年 6 月 27 日、調査面積は 40 m²である。

2 層序と遺構

層序 調査はまず、建物予定範囲を縦断する南北トレンチ (1Tr.) を掘削して行った。基本的層序としては、耕土下に泥砂質を主とした層 (②～⑧層) が堆積し、GL-1m 以下は湿地堆積を示す青灰色粘土層 (⑨層) になる。湿地堆積の上面では、粗砂層や粘土層が入り交じり (⑩～⑬層)、流水と滞水が繰り返された様子が見て取れる。中でも⑩・⑪層は明確な東西溝を形成していた。遺物は、僅少なながら最下層である⑨層にも含まれていたが、著しい湧水とトレンチ壁面の崩落のため、安全上、無遺物層までは掘削できなかった。

1Tr. では、湿地堆積である⑨層が北端でも確認されたため、西隣地で確認された遺構群は当該地まで及ばないものかと思われた。そこで念のため、極力北西隅に近い位置で調査を試みたのが 2Tr.



図 23 調査位置図 (1:5,000)

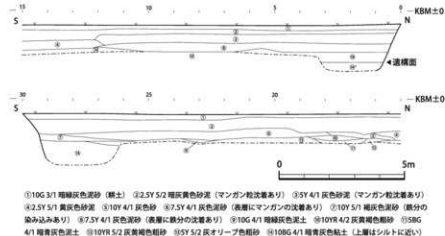


図 24 1トレンチ土層断面図 (1:150)

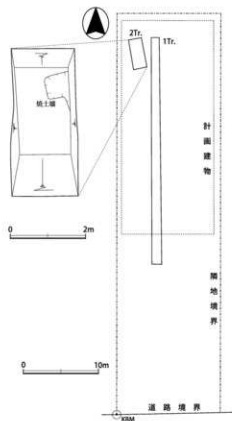


図25 調査区位置図 (1:500) 及び遺構平面図 (1:100)

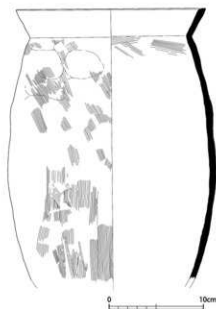


図26 焼土壙出土土器 (1:4)

である。現れた土層は1Tr.と何ら変わるものではなかったが、⑬層の中位で古墳時代の焼土層を確認し、⑬層がGL-1.5m(KBM-2.05m)で上層(⑬層)と下層(⑭層)に分層されるべきものであったことが判明した。

焼土壙 2Tr.も湧水と崩壊で、遺構の平面形・内容ともに十分検討する余裕がなかったが、焼土壙中には据え付けてあるかのような川原石があり、完形に近い土師器の甕が上に乗っていたため、竪穴住居の窟部分である可能性が高い。

なお、隣地の成果から、遺構は敷地北辺から南へ22～23m附近まで展開し、以南は遺構面である⑬'層が深く下がって湿地化していくものと思われる。

3 遺物

遺物は細片が多く、唯一、2Tr.の焼土壙から全体の半分ほどが復元できる甕が出土した。古墳時代後期の長胴甕で、焼成はやや甘く、明黄橙色を呈する。外面は頸部より下をタテハケで調整している。底部が欠損していることもあり、煤などの煮沸痕は残っていない。

4 まとめ

今回の調査では、隣地で検出された遺構が当該地にも広がることを確認された。また、水気の多い土地柄ゆえに、遺構面のグライ化が進行し、遺構面の認識が難しくなっていることも判明した。以後附近の調査には注意を要するだろう。

なお、本件については当初計画どおり、基礎深を抑えて遺構を保存する方向で協議中である。

(堀 大輔)

註

1) 辻裕司・磯部勝「下島羽遺跡発掘調査概報」京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所、1988年

V-5 中久世遺跡 No.122

1 はじめに

調査地は、南区久世殿城町221の一部他で、JR東海道新幹線の東側隣接地である。当該地は、室町幕府の被官衆である久世氏が築いたとされる戦国時代の平城、下久世城跡の西側に接しており、堀跡の存在が推定されていた。

今回、当該地で宅地造成が計画されたため、計画道路予定部分を中心に5箇所の調査区を設定した。その後、下久世城の堀跡を検出する目的で東西方向の調査区を3箇所追加した。調査の結果、敷地東端で井戸跡1基、柱列2条を検出したほか、推定堀跡で堀が存在しないことがわかった。試掘調査は、平成18年3月13、14、15日、8月8日の4日間実施した。調査面積は181㎡である。



図27 調査位置図 (1:5,000)

2 層序と遺構

層序 層序は単純で、旧耕作土の直下に遺構検出面でもある黄褐色砂泥層の地山が広がる。推定堀跡部分も同様で、現存する土塁は、この地山を土台にして築かれている。

井戸跡 敷地東端に設定した2 T中央部で検出された、東西3.2 m、南北2.8 mのやや楕円形の掘形をもつ井戸である。深さは約1.4 mある。腐敗して残存していないが、その痕跡から一辺1.1 m程度の井戸枠があったと考えられる。また、井戸底に直径35 cm程度のオリブ灰色泥土の堆積を認めることができたが、この堆積は水溜にあった曲物の内側に堆積したものかもしれない

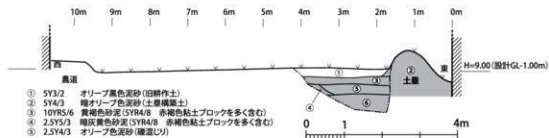


図28 推定堀跡部分 (追加3 T) 北壁土層断面図

い。井戸の掘り中から土師器や須恵器の小片が出土し、埋土の最下層から瓦小片が出土するものの、遺物の時期差が大きく、構築時期は確定できない。遺物は埋土上層で比較的大型の瓦器碗や瓦器皿が出土しており、最終的な埋没時期は11世紀末から12世紀前半頃と考えられる。

柱列1 一辺45cm～55cmの方形に近い掘形をもつ2基の柱穴が2.4m離れて東西方向に並ぶ。深さは10cm弱しかなく、かなりの削平を受けている。柱穴3では根石として使用したとみられる平坦面を上にした石を検出した。

柱列2 柱列1の南側約1.5mで、円形の掘形をもつ直径約30cm、深さ10cm弱の柱穴2基

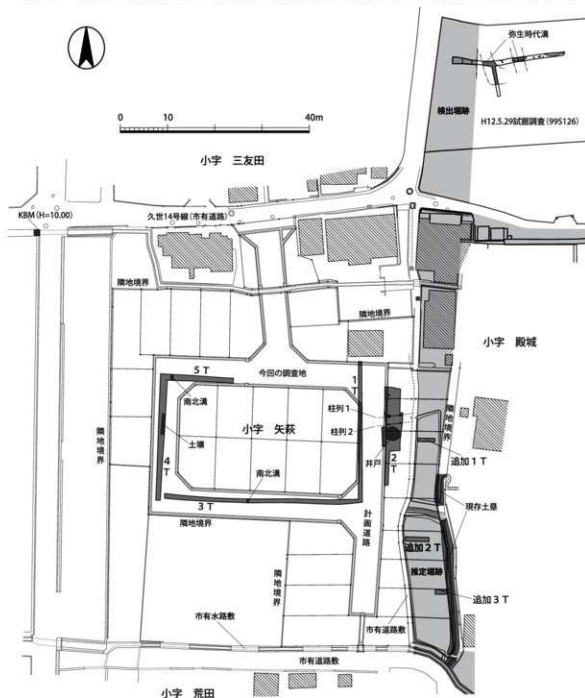


図29 試掘調査区位置図 (1:800)

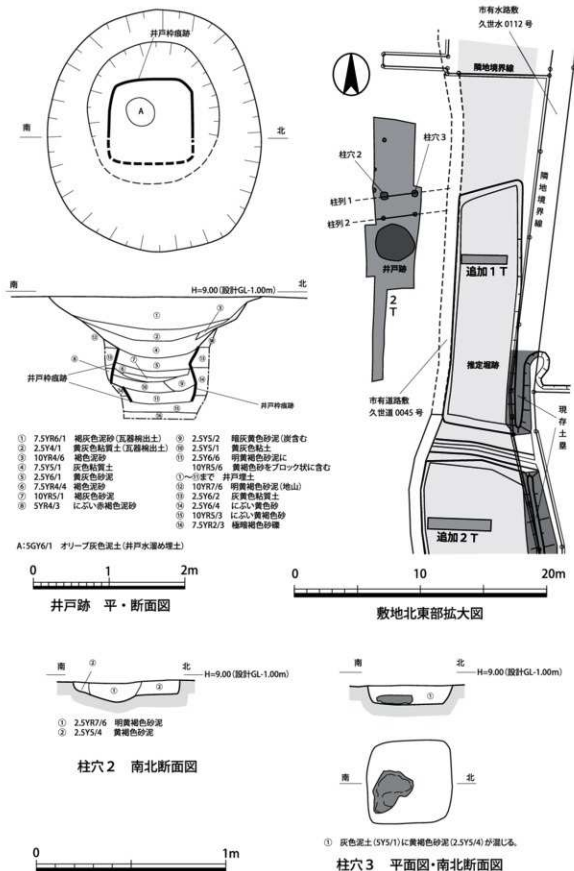


図30 敷地北東部拡大図(S=1:300)・井戸跡 平面・断面図(1:50)

柱穴2、柱穴3 平面図・南北断面図(S=1:20)

を確認した。柱列1に並行で、2基の柱穴間は約2.4 mである。

土塁と水路 敷地東端、下久世城推定範囲との境界付近に幅約2 m、高さ約0.9 mの土塁が長さ38 m余り残存している。この土塁は、地山の明黄褐色砂泥層を基底部にして構築されている。当初この溝の西側の幅6 m～8 mの水田を堀跡とみて3箇所の追加トレンチを設定したが、堀跡は全く認められなかった。一方、土塁の東側に沿って幅1 m程度の市有水路敷があり、小字殿城と小字矢萩との境界になっていることから、下久世城に伴う堀はこの市有水路敷の可能性が高い。

3 遺物 (図31)

今回出土した遺物の大半は、井戸跡からのもので、土師器73点、須恵器43点、緑釉陶器6点、瓦器18点、陶器1点、その他土器片9点、瓦片9点の合計159点が出土した。小片が多く、図化できたのは、白磁碗1点、瓦器碗2点、瓦器皿1点である。その他、4 Tの小ピットから出土した須恵器杯を図化した。

白磁碗 削り出し輪高台の碗(2)で、口径13.1 cm、高台径5.6 cm、器高2.4 cmを測る。側壁から口唇部にかけて内湾して立ち上がり、高台付近を除き、内外面とも施釉されている。平安京編年のIV期中(11世紀中)頃のものと考えられる。

瓦器 皿(3)は口縁部が1段ナデ、底部から側壁は指押さえにより成形され、内底面には暗文が施されている。碗(4・5)の器形はほぼ同じで、断面三角形の高台が付く。碗(5)は高台との境界付近を除き、内外面とも密にミガキが施され、内底面には平行暗文が施される。平安京編年のV期古(11世紀末～12世紀初)の時期のものであろう。

須恵器 口径10 cm、高台径8.2 cm、器高4.5 cmの杯B(1)で、側壁の立ち上がりは垂直に近く、高台は底部と側壁の境界付近に貼り付けられている。8世紀末と考えられる。

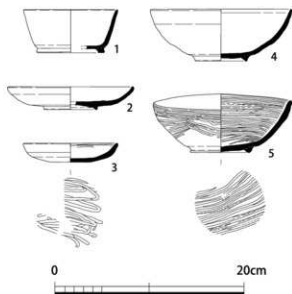


図31 出土陶磁器実測図(1:4)

4 まとめ

井戸跡の南側及び1 T以西は極端に遺構密度が低くなる。これは、耕作に伴い削平された可能性を考慮しても、2 Tの状況と著しく異なる。表面採集される土器も2 T以東に集中しており、小字矢萩は平安時代から中世にかけて一部を除き居住域と異なる使用がなされたのであろう。2 T周辺部においても、平安時代末頃には廃絶し、小字殿城に集約されるのではないかと考えられる。(馬瀬 智光)

V-6 史跡名勝嵐山 No.119

1 はじめに

調査地は西京区嵐山中尾下町 23-5 で、阪急嵐山駅の西約 150m、渡月橋の南東 350m ほどにある宅地である。十三参りで有名な古刹法輪寺にもほど近い場所である。桂川右岸においては、旧集落域である東一ノ井用水右岸では遺構密度が高く、集落域外である左岸では低い傾向があるが、当該地は前者の範囲に含まれる。

今回ここに共同住宅新築のための現状変更申請があったため、平成 18 年 6 月 30 日、埋蔵文化財の試掘調査を実施した。調査面積は 31 m² である。



図 32 調査位置図 (1:5,000)

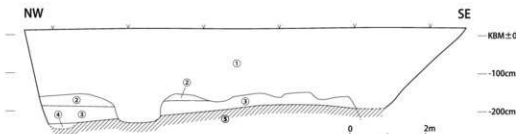
2 層序と遺構

層序 当該地は北東へ向けて下る緩斜面上に立地する。敷地は周囲より高く、一見して盛土

されていると思われた。実際、地表下には分厚い現代盛土 (①層) があって、その下に近世～近代の包含層が 2 層ある (②・③層)。その下層の黄褐色泥砂層 (⑤層) はやや軟弱ではあるものの、比較的締まりが良いため遺構と判断して調査を行った。

調査の結果、1Tr. で土壌 1 を、調査の最終段階で追加掘削した 2Tr. でそれに先行する石組遺構 2 を検出し、⑤層は石組遺構 2 を埋めた整地土であることが判明した。

土壌 1 径約 60cm。1Tr. 北端の⑤層上面で検出した。図 34 では石組遺構 2 に切られているように見えるが、これは石組みを動かさずに土壌を掘っているためにそう見えるもので、実際に



①現代盛土 ②10YR 4/2 灰黄褐色泥砂 (近世～近代? 包含層) ③10YR 4/4 褐色泥砂 (近世瓦層片含む)
④10YR 4/1 褐灰色泥砂 (土壌 1、炭・土師器含む) ⑤10YR 5/6 黄褐色泥砂 (比較的締まり良い、江戸初期築地)

図 33 1 トレンチ土層断面図 (1:100, 2 トレンチ掘削前)

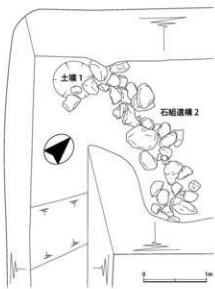
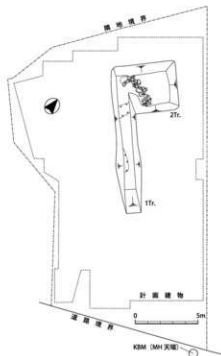


図34 トレンチ位置図 (1:300)
及び検出遺構平面図 (1:60)

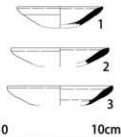


図35 遺物実測図 (1:4)

は石組遺構 2 に後出する。

石組遺構 2 1Tr. 北端から 2Tr. にかけて検出した。KBM-1.84 ~ 2.00m が石組みの天端である。人頭大の川原石を用いた石組みで、西北西-東南東方向に軸線を持ち、北北東側へ向けて持ち送り状に数段下がっている。その段数は少なくとも 3 段を数え、まだ下へ続くようである。圍池の岸と見てもよいものであるが、その低い側に滞水を示す泥土等の堆積は認められない。遺構保存の観点から完掘はしていないので、あるいは更に深いレベルに堆積しているものであろうか。また、同様の理由で石組みの全容と、それを据え付けた面として明確なもの確認には至っていない。なお、この石組遺構を埋め立てて⑤層が成立している。

3 遺物

遺構を完掘していないこともあり、遺物は細片が少量あるのみである。図示 35 の 1・2 は土層 1 から、3 は石組遺構 2 の表面から出土したもので、いずれも 16 世紀末 ~ 17 世紀初頭 (小森・上村編年 X 1 期古段階) のものである¹⁾。石組遺構の廃絶年代の上限を示すといえる。

4 まとめ

同じ嵐山地域でも、史料の豊富な渡月橋北岸に比べ、調査地を含む南岸の状況は詳しくは分からない。今回検出した遺構は、16 世紀に遡る何らかの庭園施設だと思われるが、だとすれば南岸域で初めての発掘例となる。

この遺構については、事業主の協力を得て、基礎形状の設計変更により地下保存されることとなった。

(堀 大輔)

註

1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年の研究」(財)京都市埋蔵文化財研究所「研究紀要」第 3 号、1996 年)

V-7 長岡京左京一条四坊四・五町跡・東土川遺跡 No.112

1 はじめに

調査地は名神高速道路の桂川パーキングエリア (PA) から北に約 200m に位置する工業団地内、南区久世東土川町 350-12 である。長岡京左京一条四坊四・五町跡及び下層遺跡の東土川遺跡に含まれる。

東土川遺跡は、桂川右岸において数多く営まれた弥生～古墳時代の集落遺跡の一つであり、特に平成 5～9 年度の (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センターが実施した桂川 PA 建設に伴う広範な発掘調査では、長岡京期の条坊跡や掘立柱建物跡とともに、弥生～古墳時代の水田跡や方形周溝墓、流路跡など、数多くの遺構が検出されている¹⁾。

今回、ここに工場の建て替え計画が立てられたため、遺構の残存状況を確認することを目的として 9 月 4 日に試掘調査を実施した。調査区 (1 トレンチ) は建設予定建物の形状に合わせて東西方向に設定した。調査面積は 43 m² である。



図 36 調査位置図 (1:5,000)

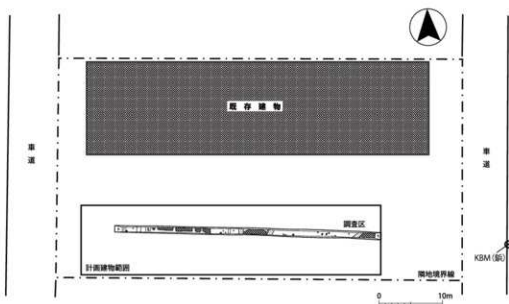


図 37 調査区位置図 (1:600)



写真10 竪穴住居6 検出状況(南西から)

2 検出遺構

調査区内では旧建物の影響は一切なく、遺構が非常に良好な状態で検出された。その内訳は竪穴住居跡3棟以上、溝7条、柱穴及びピット20基に及ぶ。基本層序は現代盛土(①層)、旧耕作土及び床土(②~④層)、一部に褐色系堆積層(⑤~⑦層)、地山(⑧層)である。地山は非常に安定した黄褐色砂泥で、主要な遺構はこの上面で検出した。遺構面のレベルは調査区の東から西にかけて段階的に高くなる状況が認められ、調査地が緩やかに東へ下がる傾斜地であることがわかる。調査地東隣の敷地内に設けられた鉄を仮ベンチマーク(KBM)とすると、東端でKBM-125cm、西端で

KBM-77cmを測る。

竪穴住居1 調査区東端で検出された。埋土の厚さは検出面から30cm以上あり、埋土からは多くの弥生土器片が出土した。規模及び平面プランは不明である。

竪穴住居4 調査区のほぼ中央に認められる。調査区内で竪穴住居の二辺を検出したが、その角度は直角よりもはるかに広い。平面形が円形となる可能性もある。

竪穴住居6 調査区東端から27~37mの範囲で検出した。埋土は東端で検出面から15cm程度残る。おそらく複数の竪穴住居が切り合っていると考えられる。

溝2・3・5 竪穴住居を切って成立している。南北方向であるが、溝2・3はやや東に振る。各溝の埋土は同じ暗褐色砂泥であり、时期的に大きな隔たりはないと思われるが、遺物の出土はなく時期の確定はできない。

これらのほかに、竪穴住居6を切る溝7や多くの柱穴及びピットが検出された。溝7は平面形が短冊状を呈し、耕作に関連する溝と思われる。柱穴は柱当たりのあるものも多く、竪穴住居と同時期のものと想定されるが、調査区内では確実に並ぶものは見出せない。

3 出土遺物

遺物は遺構面から多く出土しており、特に竪穴住居からは石鏃や石器石材の剥片、弥生土器の大きな破片がまとまって出土した。

弥生土器(1・2) いずれも竪穴住居1からの出土で、平底の底部をもつ破片である。1は肩部まで復元される。底部は比較的薄くつくられており、壺の可能性が高い。器面摩滅のため調整は不明瞭。2も壺の底部と推定される。内外面ともにタテ方向の調整工具痕がわずかに残るが、詳細は不明。これらは弥生時代後期のものと思われる。

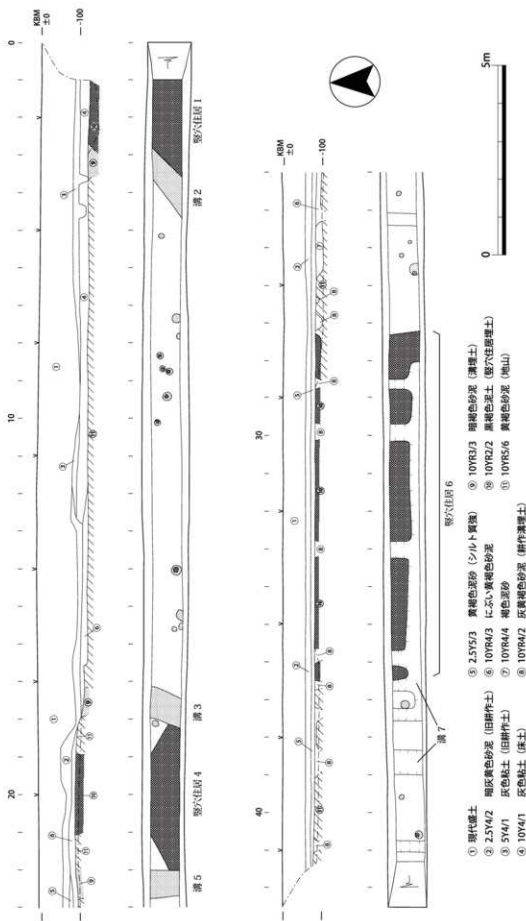


図 38 トレンチ平面・断面図 (1:100)

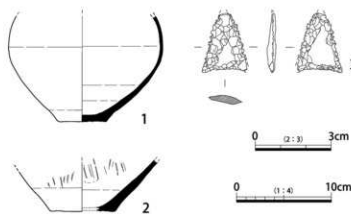


図39 遺物実測図 (1・2=1:4, 3=2:3)

打製石鏃(3) 竪穴住居6からほぼ完形で出土した。凹基式。現存長2.35cm, 最大幅1.80cm, 最大厚0.30cm, 重量1.1gを測り, 石材はサヌカイトである。横断面形は左右非対称。調整剥離は両面両側辺とも先端部から基部の順に施すが, 下辺では一定しない。ほかに, 未製品と思われるサヌカイト製の剥片も出土している。

4 まとめ

調査の結果, 検出した遺構及び出土遺物は弥生時代後期に属するもので, 調査地には東土川遺跡に関する遺構がきわめて良好に残っていることが判明した。なお, 長岡京に関する遺構は全く確認できなかった。遺物も旧耕作土中から長岡京期の土器片が1点出土したのみである。

これまで東土川遺跡の生産域及び墓域の分布は明らかになっていたものの, 居住域については平成2年度の立会調査において本調査地の西に隣接する南北道路で部分的に検出されていた程度にとどまっております²⁾, 今回の調査によって居住域に関する内容がより明確となった。

なお, 今回の調査で検出した遺構は, 協議の結果, 基礎深度の設計変更がなされ現状保存が図られている。 (宇野 隆志)

註

1) 野島 永(編)2000「長岡京跡左京二条三・四坊・東土川遺跡」京都府遺跡調査報告書第28冊 (財)京都市埋蔵文化財調査研究センター

2) 長宗繁一1994「長岡京跡左京一条四坊・東土川遺跡」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所

V-8 長岡京左京七条四坊八町跡 No.116

1 はじめに

調査地は桂川との合流地点手前の西羽東師川左岸、伏見区淀桶爪町634-1他である。この地は長岡京左京七条四坊八町の西端にあたり、約500m西には古墳時代の集落跡である水垂遺跡が所在する。

西羽東師川の護岸擁壁崩壊に伴って緊急に補修工事が実施されていたところ、土器片が出土したとの連絡を受けた。これを受けて、5月10日に試掘調査を実施した。調査地付近は湧水が著しく、地盤もきわめて軟弱であるため、発掘調査の実施は不可能であると判断し、その後は補修掘削工事の工程に合わせて6月6日～9月21日の期間で立会調査を断続的に実施した。ここでは、試掘調査及び立会調査の成果を合わせて報告する。

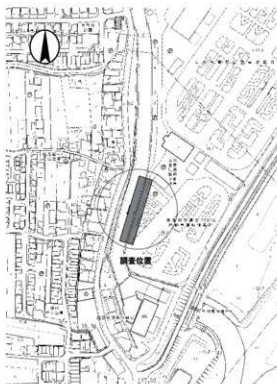


図40 調査位置図 (1:5,000)

調査地は、擁壁補修工事のため、幅約11m、全長約54m四方を遮水鋼矢板で囲まれ、さらにH鋼は東西方向にも4m間隔で設置されているため、4m×11mの区画を計13区画形成している。調査にあたって、この13の区画を上流(北)から1～13区とし、主に西壁の土層断面観察と記録作業を行った。

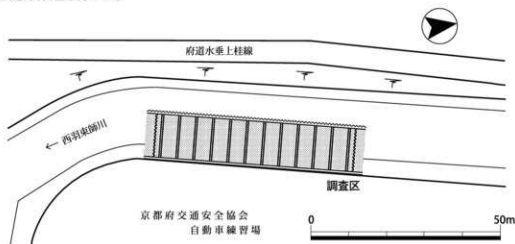


図41 調査区位置図 (1:1,000)

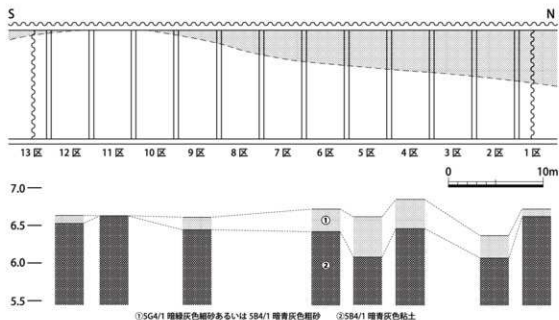


図42 調査区平面図(1:400)及び西壁柱状図(1:50)

2 層序と遺構

西壁断面観察による基本層序は、5G4/1 暗緑灰色細砂あるいは5B4/1 暗青灰色粗砂(①層)及び5B4/1 暗青灰色粘土(②層)である。①層は現状地表面より厚さ10～60cmを測り、その下に②層が厚く堆積する。遺物は①層より出土し、②層からは認められない。①層の平面的な広がりを見ると、1区では西壁から東へ約5.5mの範囲まで認められるが、南へ行くにつれて、その幅は減少し10区ではみられない。12区まで下ると、再びわずかに認められるようになる。

以上より、調査地における遺構は幅5.5m以上、深さは0.6m以上の南北方向の流路状遺構と想定される。

3 遺物

いずれも①層の標高6.5m前後の地点から出土した。特に1区に集中する。

1～7は高杯。3は5区出土。1・2は椀形高杯で、5は反外口縁高杯である。脚部の透かしは認められない。8は丸底の壺で、口縁端部はわずかに外方に屈曲する。外面ナデ、内面は板目状ハケ調整を施す。9は甕で、口縁端部にはしっかりと平坦面をつくる。外面は粗いハケ、内面はケズリ調整。10は甕。13区出土。直口縁で、断面が扁平な牛角状把手がつく。底部は欠損するが楕円形の蒸気孔が一部認められる。調整は外面タテハケ、内面下半はタテ方向ケズリ、上半はタテハケ。土師器はいずれも胎土が精緻である。11は須恵器杯蓋。口径は12.0cmに復元される。12は須恵器壺。口縁端部まで丁寧にカキメを施す。

これら図化し得た資料のほかにも、受け口状口縁をもつ甕の土師器片や須恵器甕の小片、木製品片、馬の下顎骨などが数多く出土している。

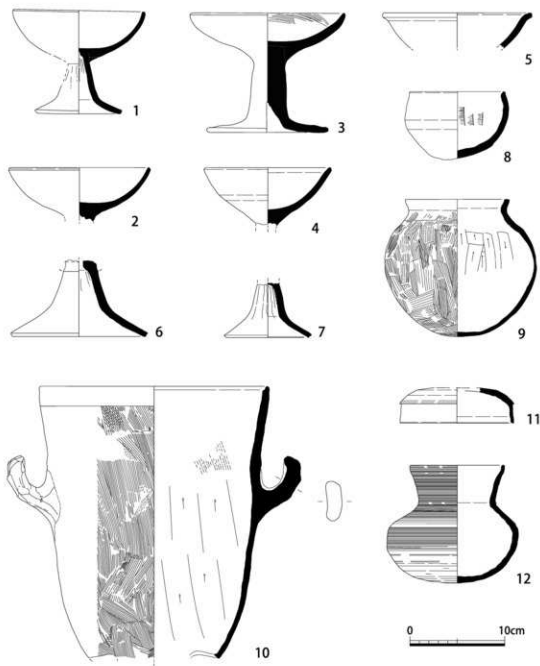


図43 出土遺物実測図(1:4)

4 まとめ

今回、出土した土器群は、いずれも古墳時代中期後半段階におさまるもので、全体的にみて良好な一括資料と位置づけることができる。また、器種構成や型式からみれば、近在する水垂遺跡からも類似する土器群が出土しており¹⁾、本調査地と水垂遺跡との関連が十分に窺える。

(宇野 隆志)

註

1) 長宗繁一他 1998『水垂遺跡 長岡京左京六・七条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第17冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所

VI 試掘調査一覧表

平成17年度1月～3月

平安京左京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
1	八条二坊五町跡	南区西九条成光寺町2-4	1/27	GL-1.2mで鎌倉時代の堀川小路西側溝を検出する。本文5頁。	28㎡	05H307

平安京右京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
2	北辺三坊八町跡	右京区花園鷹司町1-1, 北区大將軍坂田町8-1の一部	2/22	現代盛土直下で推定平安時代の柱穴・溝などを検出する。発掘調査を指導する。	47㎡	05H134
3	三条三坊十三町跡	中区西ノ京島ノ内町24, 25	1/12	GL-1.7の地山面で時期・性格不明の土壌を検出する。	56㎡	05H403
4	五条三坊十四町跡	右京区西院日照町112	2/27	GL-1mで平安時代以前と考えられる柱穴・土壌・溝などを多数検出。発掘調査を指導。	139㎡	05H487
5	七条三坊九町跡	右京区西京極北庄院町17	1/6	GL-0.95m以下, 流水ないし湿地状堆積。	14㎡	05H460
6	七条三坊十六町跡	右京区西京極豆田町29-1他	3/16	GL-1.8m以下, 平安時代の遺物包含層,-2.1mで地山。	28㎡	05H573
7	八条三坊十六町跡	右京区西京極佃田町11-6	2/7	GL-1.3m以下, 湿地ないし流水堆積。	41㎡	05H470

洛北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
8	上京遺跡	上京区今出川大宮元伊佐町270	3/24	GL-2mで平安時代の遺物を含む中世・近世の土壌7基を検出する。施工時の立会調査を指導。	13㎡	05S493

北白川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
9	北白川追分町遺跡	左京区田中樋ノ口町31	3/8	GL-56cmで中世包含層,-76cm古代包含層上面で中世の掘立柱建物1棟検出,-90cmで地山。	51㎡	05S566
10	松蔭町遺跡	上京区寺町通荒神口下松蔭町137	2/13	GL-0.7mで江戸時代の整地層,-1.3mで平安末～鎌倉時代の包含層。施工時の立会調査を指導。	50㎡	05S556

洛東地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
11	御土居跡	中区河原町蛸薬師下る塩屋町344	1/23	敷地奥で地山の砂礫層(鴨川氾濫堆積)の高まりを認める。	25㎡	05S231
12	中臣遺跡	山科区勧修寺西栗栖野町21-1, 58-1, 東栗栖野町87-4, 5	2/24	調査地北半は, 旧耕作土直下で砂礫ベースで遺構・遺物なし。	22㎡	05N612

伏見・醍醐地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
13	伏見城跡	伏見区桃山町立売44他	2/8, 3/6, 7	敷地の大半が旧建物による攪乱を受けている。伏見城武家屋敷の造成跡を検出。本文15頁。	189㎡	05F474
14	醍醐寺寺院跡	伏見区醍醐中山町25-5, 25-15, 25-16	1/25	削平により遺構・遺物なし。試掘面積狭小につき, 施工時の立会調査を指導。	8㎡	05S448

鳥羽地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
15	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏見区竹田西小屋ノ内町48の一部, 50の一部	1/13	GL-0.9mで建物地業跡および石列の抜き跡を検出する。設計変更を指導する。本文18頁。	23㎡	05T521
16	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏見区中島秋ノ山町133-2	3/29	GL-1.2mで東へ落ち込む地跡を検出。本文18頁。	12㎡	05T597
17	鳥羽離宮跡	伏見区中島宮ノ前町4	1/16	道路面-1.6mで湿地堆積,-2.8mで砂礫の地山。	28㎡	05T465

18	鳥羽離宮跡	伏見区中島宮ノ前町53	1/5	GL-0.8mで砂礫の流れ堆積。	14㎡	05T413
19	鳥羽離宮跡	伏見区中島堀端町87,88	3/2	GL-0.9mで泥土, GL-1.3mで砂礫の地山。	11㎡	05T412

長岡地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
20	長岡京左京三条三坊九町跡・鶏冠井清水遺跡	伏見区久我西出町3-61, 3-165	2/15	GL-0.8mで、灰白色粘土の地山。	19㎡	05NG500
21	長岡京左京五条三坊十三町・六条三坊十六町跡	伏見区羽東筋古川町411, 412	3/22	GL-1.7mで南北方向の中世の耕作溝を検出。	32㎡	05NG585
22	長岡京左京八条四坊四町跡	伏見区納所北城堀町ほか	2/1	耕土直下, 流水堆積。	42㎡	05NG186

南・桂地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
23	史跡名勝嵐山	京京区嵐山森ノ前町5-1	1/18	GL-0.45m以下, 流水堆積。	6㎡	17N40
24	福西古墳群	京京区大枝東長町1-208, 209	3/27	調査地西端に古墳石室石材が露出。トレンチ調査ではこの古墳の縁石と考えられる石列を検出。発掘調査を指導する。	53㎡	05S604
25	中久世遺跡	南区久世殿城町221, 222, 225-1, 227-1, 232-1の各一部, 227-2, 229, 249, 250, 市有地	3/13~15	耕作土直下に井戸, 柱穴, 溝など。再試掘を指導する。No. 122で再試掘実施。本文25頁。	172㎡	05S572

平成18年度4月～12月

平安宮地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
26	一条大路跡	上京区浄福寺通一条下る東西依屋町655	7/14	GL-2.75mまで掘削するもの石炭ガラの盛土のみ。聚楽第の堀跡か?	4㎡	06K243
27	大蔵省跡	上京区浄福寺通一条下る東西依屋町656, 661	11/22	GL-約2mまで掘削したが近世以降の廃棄物が大量に出土。聚楽第の堀跡にあたる。	9㎡	06K301
28	大蔵省跡	上京区浄福寺通一条下る東西依屋町656, 661	11/22	GL-約2mまで掘削したが近世以降の廃棄物が大量に出土。聚楽第の堀跡にあたる。	8㎡	06K302
29	正親司跡	上京区下長者町七本松西入鳳頭町223	7/5	GL-0.5～0.7mで平安前期の土壌・井戸・柱穴・溝を検出。発掘調査を指導する。	27㎡	06K089
30	大蔵省跡	上京区上長者町千本西入下る中務町491-72	5/15	GL-0.8mの黒ボク層上面で時期不明の土壌3基。-1.5mで地山。	21㎡	05K661
31	内裏内郭回廊跡・聚楽遺跡	上京区下立売通智恵光院西入下丸屋町495	10/27	1TではGL-1.8m, 2TではGL-1.4mで地山検出。	8㎡	06K463
32	朝堂院回廊跡・聚楽遺跡	上京区下立売通千本東入下る中務町486-20	10/20	GL-22cmで大板敷付近遺宮時の整地面を検出。施工時の立会調査を指導する。	8㎡	06K323
33	中務省跡北隣接地	上京区下立売通千本東入下る中務町486-129	4/21	GL-0.9mで土取り穴。平安時代の土器・瓦類が埋土から出土する。本文3頁。	18㎡	05K555
34	中務省跡東隣接地	上京区下立売通千本東入下る中務町486-20	9/1, 10/6	GL-0.6～0.9mで褐色砂泥の地山。地山上で幅1.5m以上, 深さ0.8m以上の南北溝を検出。	21㎡	06K187
35	主水司跡	上京区日暮通丸太町上る西入西院町747	4/3	敷地の大半で粘土採取により, 遺構面削平。敷地中央部で, 土壌2基, 包含層1。	60㎡	05K575
36	豊楽院跡	中京区聚楽廻西町111-3, 111-5	8/25	GL-0.85cmで地山の黄灰色砂礫層。近世の柱穴, 土壌を検出するが, 平安期の遺構・遺物なし。	17㎡	06K255
37	朝堂院朝集堂跡・聚楽遺跡	中京区聚楽廻南町24-3	12/4	GL-1.8cm前後で地山を確認。	36㎡	06K383
38	朱雀門跡北側	中京区西ノ京小堀町1-14, 1-15	8/9	GL-0.5mで砂礫の地山を検出。平安期の遺構はなし。	16㎡	06K128
39	朱雀門跡北側	中京区西ノ京小堀町1-1, 1-20	7/26	GL-0.2cmで砂礫の地山。平安期の遺構なし。	21㎡	06K139

平安京左京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
40	三条三坊九町跡・二条殿御池城跡	中京区二条通両替町下る金吹町748他	5/22	GL-1.5mで平安時代後期の柱穴等、調査区東端で幅4m以上の溝状遺構。発掘調査を指導。	33㎡	05H666
41	三条三坊十町跡・烏丸御池遺跡・二条殿御池城跡	中京区両替町通押小路下る金吹町452	5/8	GL-2.5mで黄褐色砂泥の地山。中世の土壌1基を検出。	12㎡	05H647
42	四条二坊堀川小路跡	中京区堀川通三条下る橋浦町229, 237, 六角通油小路西入越後町182	7/12	GL-0.7~1.2m以下、氾濫堆積。2.0mで中世の南北溝。	37㎡	05H357
43	四条三坊四町跡	中京区新町通錦小路下る小結棚町444	7/3	GL-0.3m以下で平安時代後期～室町時代の遺構、遺物多数。発掘調査を指導する。	30㎡	06H076
44	四条三坊六町跡	中京区室町通錦小路上る山伏山町551-2	4/10	KBM-2.2~2.5mで地山。中世?~近世の溝2条、土壌2基、井戸1基、柱穴3基を検出。施工時の立会調査を指導する。	32㎡	05H476
45	四条三坊十二町跡	中京区菊水鉾町584-1, 下京区函谷鉾町79, 81	5/31	既存建物による攪乱著しく、中世以前に遡る土壌は1基であった。	49㎡	05H674
46	四条三坊十二町跡・烏丸綾小路遺	下京区四条通室町東入函谷鉾町95-5, 101, 中京区烏丸通錦小路下る笋町698-1	6/5	GL-1.3mの地山上で柱穴等多数検出。発掘調査を指導。	35㎡	06H047
47	四条三坊十四町跡	中京区東洞院通錦小路上る元竹田町631-2	10/30	GL-1.8mで中世の土壌1基を検出した他は近世の攪乱。試掘面積狭小につき再試掘を指導。	18㎡	06H185
48	四条四坊三町跡	中京区蛸薬師東洞院東入泉正寺町320, 西魚屋町612-1, 612-2	8/10	GL-0.64~0.70mで中世の遺構面。敷地北半で土壌・柱穴・濠?等多数検出。発掘調査を指導。	69㎡	06H157
49	四条四坊九町跡	中京区六角通柳馬場東入大黒町71他	12/6	GL-1.3m (KBM-1.47m) で中世整地層。土壌・溝等多数検出。設計変更を指導する。	42㎡	06H098
50	四条四坊十一町跡	中京区柳馬場通蛸薬師下る十文字町444他	12/12	GL-1.8mで中世整地層、2.4mで平安末の遺構面。土壌、柱穴等を検出。発掘調査を指導。	59㎡	06H365
51	四条四坊十四町跡	中京区御幸町通蛸薬師下る船屋町378	9/13	浅いところでGL-1.2mで中世の遺物包含層や土壌を検出。発掘調査を指導する。	31㎡	06H281
52	五条二坊五町跡・烏丸綾小路遺跡	下京区西堀川通高辻下る高辻堀川町362-2, 岩上通高辻下る吉文字町448, 450, 452	11/13	調査区ほぼ中央において、GL-1.5mで近世の蔵基礎と考えられる拳大の礎敷を確認。	32㎡	06H314
53	五条二坊十五町跡・烏丸綾小路遺	下京区西洞院通綾小路下る綾西洞院町745他	12/15	調査地の東では流水堆積を確認。現代攪乱が顕著。	37㎡	06H460
54	五条三坊六町跡・烏丸綾小路遺跡	下京区室町通高辻西入繁昌町300-1	8/21	GL-2.1m~2.8mで、室町時代の土壌、柱穴等を複数検出。発掘調査を指導する。	35㎡	06H153
55	八条四坊七町跡	下京区上之町18-16他	9/6	氾濫堆積である砂礫の地山上で、近世以後の2時期の高瀬川流路を検出。	9㎡	06H246

平安京右京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
56	一条二坊七町跡	上京区上ノ下立売通御前通西入二丁目堀川町517	12/18	GL-0.6m~0.85mで平安時代の柱穴・土壌等多数検出。発掘調査を指導する。	37㎡	06H483
57	一条四坊十三町跡	花園伊町38, 38-16, 38-17, 33-12, 33-18	8/30	GL-1.3mで平安時代の柱穴・土壌・溝を検出。設計変更を指導する。	28㎡	05H330
58	二条三坊十三町跡	中京区西ノ京藤ノ木町11-7	6/12	GL-0.6mで平安時代の溝、柱穴等検出。設計変更を指導する。	34㎡	05H656
59	三条一坊十一町跡・壬生遺跡	中京区西ノ京東月光町22他	7/7	時期不明ながら、土壌や柱穴、流路等を検出。施工時の立会調査を指導する。	71㎡	06H111
60	三条二坊十一町跡	中京区西ノ京下合町38-4	8/28	GL-0.6mで中世遺物包含層、GL-0.9mの地山面で溝や柱穴などを確認。発掘調査を指導。	11㎡	06H081
61	三条三坊一町跡	中京区西ノ京西中合町15, 16	4/19	GL-1.2mで平安時代の土器や瓦を少量含む湿地堆積。その直上は、天神川の氾濫堆積。	43㎡	05H606
62	三条三坊七町跡・西ノ京遺跡	西ノ京徳大寺町1	4/12	西佐井通上の旧流路の氾濫堆積と、大規模な湿地堆積を確認した。	99㎡	05H558

63	三条三坊十一町跡・西ノ京遺跡	中京区西ノ京原町1	12/27	GL-1.8m前後まで近現代盛土，以下湿地状堆積，氾濫堆積が続く。	149㎡	05H559
64	三条三坊十二町跡	中京区西ノ京原町1	4/24	GL-1.7mで平安時代の瓦や須恵器の細片を僅かに含む湿地堆積。	60㎡	05H560
65	四条一坊一町跡・朱雀大路跡	中京区壬生朱雀町30-1, 30-3, 38-5, 38-14	8/7	GL-0.8~1.3mで砂礫の地山。	23㎡	06H097
66	四条一坊七町跡	中京区壬生天池町24, 23の一部	10/23	GL-1.2mで平安時代と思われる整地層。	32㎡	06H413
67	四条二坊十二町跡・壬生遺跡	右京区西院東淳和院町30-1	5/17	GL-0.7mで平安時代の掘立柱建物跡他を検出。設計変更を指導する。本文9頁。	35㎡	06H078
68	四条四坊十町跡	右京区山ノ内西裏町6他	10/10, 11	GL-0.8~0.9mで地山。溝・柱穴等を検出。	58㎡	06H306
69	四条四坊十六町跡	右京区山ノ内苗町8-1	6/14	葛野大路歩道高-0.65mで柱穴・溝を検出。遺構密度は低い。	168㎡	06H030
70	五条三坊二町跡	右京区西院北矢掛町20	11/10	GL-1.0mの黒色粘土上で南北溝3条を検出。	41㎡	06H378
71	五条四坊五町跡・西京極遺跡	右京区西院月双町19	9/25	GL-1.45mで黄褐色粘土の地山。耕作溝数条を検出。	27㎡	06H228
72	五条四坊八町跡	右京区西院安塚町24, 28	5/12	GL-1.3~1.5mまで全て現代盛土。	8㎡	06H010
73	六条一坊十四町・二坊三・六・十一町跡	下京区中堂寺栗田町~右京区西院南高田町(五条通拡幅)	9/20, 21	一部既存建物により遺構面が削平されているものの，全体に残りが良く発掘調査を指導する。	87㎡	06H199
74	六条三坊十五町跡	右京区西院久保田町6-1他3筆	6/2	敷地西半GL-1.75~2.20mで溝・柱穴・土壌を検出。東半は湿地。施工時の立会調査を指導する。	92㎡	06H029
75	六条四坊二町跡・西京極遺跡	右京区西院清水町156-1	11/20	GL-1.1mで地山。弥生時代の堅穴住居3棟以上を検出。発掘調査を指導する。	35㎡	06H397
76	六条四坊四町跡・西京極遺跡	右京区西院六反田町18	8/23	時期不明の南北溝状遺構検出。KBM-1.5mで東下りりの湿地堆積。	39㎡	06H159
77	六条四坊八町跡・西京極遺跡	右京区西院月双町82	6/28	GL-0.2mで，平安時代の柱穴・溝・土壌等を検出。発掘調査を指導する。	37㎡	06H074
78	七条二坊九町跡	下京区西七条掛越町40-3	4/14	GL-0.8mで地山。擾乱や河川の影響が大きい。	27㎡	05H643
79	七条二坊十一町(西市)跡・衣田町遺跡	下京区西七条比輪田町30	11/17	GL-0.9mで地山。土壌2基，ビット4基を検出。	26㎡	06H453
80	七条二坊十四町跡	下京区西七条比輪田町20-1, 20-2	11/27	GL-1.9mまで解体擾乱，以下砂礫の地山。遺構面は削平されている。	32㎡	06H408
81	七条四坊八町跡・西京極遺跡	右京区西京極畔勝町65	7/20	KBM-0.8~1.8mで氾濫堆積。敷地中央部がすり鉢状にくぼんでおり，湿地の時期もある。	45㎡	06H220
82	八条三坊十三町跡	南区吉祥院向田東町14	4/6	GL-0.6~1.1mで砂礫の地山。遺構・遺物なし。	50㎡	05H540
83	八条四坊十四町跡	右京区西京極芝ノ下町7, 7-4, 7-5, 7-6, 7-1の一部	9/27	GL-1.9mで砂礫の地山。桂川の氾濫堆積を確認。	37㎡	06H291
84	九条一坊四町外・羅城門跡隣接地	南区唐橋羅城門町47-1, 47-4	4/7	羅城は現在のレベルよりも高い可能性があり，既に削平されたものと考えられる。	38㎡	05H574

太秦地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
85	史跡名勝嵐山	右京区嵯峨亀ノ尾町他	11/1	1Tでは土師器片を多く含む焼土層他，土壌等を検出。2Tは現代盛土直下で砂礫の地山。	15㎡	17N64
86	御所ノ内町遺跡	右京区太秦御所ノ内町7-7, 14-1, 15-1の一部，16, 17-1の一部，33-2の一部	11/29	大半が擾乱。井戸状遺構1基を検出。	26㎡	06S511
87	常盤東ノ町古墳群	右京区太秦一ノ井町39, 39-4の各一部	5/26	基礎掘削深度と保護層の範囲内（GL-0.7m）では，遺構・遺物は認められず。	18㎡	05S671

洛北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
88	小倉山城跡	左京区岩倉長谷町575-9	7/18	城に関する遺構は検出できず。	4㎡	06S106
89	中の谷窯跡	左京区岩倉木野町137-1 他43筆	5/24	GL-2.5~3.1mで砂礫の地山。	21㎡	05S677
90	紫野斎院跡	上京区大宮通寺之内上る 二丁目仲之町483-1、嵐 山寺通大宮西入東社町 314、313-2	6/19	GL-0.75mで黄褐色砂泥の地山。遺構・遺物なし。	19㎡	06S034
91	相国寺旧境内	上京区今出川通丸東入 相国寺門前町643-2の一部	7/28	GL-1.1mで中近世の遺構面。近世土壌1基検出。	18㎡	06S269

北白川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
92	修学院遺跡	左京区修学院守禅庵9-4	7/31	現地表下1.2m以下、梅谷川の氾濫堆積。	17㎡	06S104
93	小倉町別当町遺跡	左京区北白川別当町5-1、 5-3、5-4、5-5	9/11	GL-1.6~1.9mで地山（白川砂）を検出。遺構はなし。	16㎡	06S345
94	御土居跡	上京区新島丸頭通下切通 上る新島丸頭町186	8/2	近世以降の盛土下より、1mを超えらると思われる氾濫堆積を確認。	28㎡	06S146

洛東地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
95	御土居跡	中京区河原町通三条下る 大黒町58・松ヶ枝町460	10/19	GL-1.5mで地山検出。調査区西側には地山をも掘り込む近世後期の廃棄土壌あり。	28㎡	06S347
96	六勝寺跡（法勝寺跡）・岡崎遺跡	左京区岡崎南御所町44-8	9/12	GL-1.5mで中世末～近世のピット・土壌等を検出。	9㎡	06R297
97	高台寺境内（雲居寺跡）	東山区下河原高台寺門前 下河原町526-1（高台寺公園）	5/10、 11	GL-3.0mで近世～現代の池の跡を検出。遺物が出土するため施工時の立会調査を指導する。	52㎡	05S652
98	六波羅政庁跡	東山区大仏馬町伏見街道 東入一丁目北棟室町304	6/16	厚い砂礫層中から、平安期の瓦片が出土。	23㎡	06S154
99	法住寺殿跡	東山区今熊野池田町12 （大谷学園）	6/7	GL-0.5mで中世整地層。調査区東端で深さ2.0m以上の土壌を検出。施工時の立会調査を指導。	104㎡	05S021
100	安朱遺跡	山科区上野御所ノ内町 16-8他	12/25	KBM+0.05~0.15mで地山。時期不明の土壌数基検出するも、既存建物による攪乱多し。	61㎡	06S473
101	山科本願寺跡・左義長町遺跡	山科区西野左義長町25-4 他3筆	6/21	敷地中央より東側で、山科本願寺跡の溝、柱穴等を検出。発掘調査を指導する。	33㎡	05S640
102	山科本願寺跡	山科区東野舞台町6-3他	12/20	GL-1.6m以下、河川の氾濫堆積。外堀や土塁の端部は確認できず。	33㎡	06S464
103	山科本願寺南殿跡	山科区音羽伊勢宿町26-6	5/19	前面道路高0~0.5mで中世の溝・柱穴等を検出。設計変更と部分的な発掘調査を指導。	22㎡	06S016
104	中臣遺跡	山科区東野舞台町97-6	5/29	GL-0.25~1.25mで、古墳時代から平安時代と考えられる柱穴や溝等を検出。設計変更と部分的な発掘調査を指導する。	45㎡	05N673
105	中臣遺跡	山科区勤修寺西金ヶ崎300、 391	11/6	GL-0.4mで遺構面。小ピット10基、土壌2基検出。発掘調査を指導する。	29㎡	06N422

鳥羽地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
106	深草遺跡	伏見区深草森島町36-1	11/9	北側道路面-1.7mまで土取りによる攪乱。調査面積不十分のため、施工時の立会調査を指導。	4㎡	06S485
107	鳥羽離宮跡	竹田田中殿町70-1	8/14	GL-1.4~1.5mで遺構面を検出したが、遺構は認められなかった。	13.6㎡	06T219
108	鳥羽離宮跡	伏見区中島秋ノ山町146	6/9	GL-2.5mまで近世～近代層。	5㎡	06T066
109	下鳥羽遺跡	伏見区竹田松林町63	6/27	南面歩道高-2.05mで古墳時代の堅穴住居検出。本文23頁。	40㎡	06S091

伏見・醍醐地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
110	伏見城跡	伏見区深草中ノ島町	9/7,8	敷地南西部で伏見城期の遺構があり、発掘調査を指導する。	70㎡	06F245
111	伏見城跡	伏見区桃山町正宗(藤城小学校内)	12/22	盛土下GL-2.0~2.8mで地山確認。	33㎡	06F476

長岡地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
112	長岡京左京一条四坊四・五町跡・東土川遺跡	南区久世東土川町350-12	9/4	KBM-0.77~1.25mで弥生時代中~後期の遺構検出。設計変更を指導する。本文31頁。	43㎡	06NG257
113	長岡京左京一条四坊十二町跡	伏見区久我本町11-36, 11-287	8/24	GL-1.5mで柱穴・土壌等を検出。設計変更と部分的な発掘調査を指導する。	48㎡	06NG088
114	長岡京左京三条三坊十一・十二町跡	伏見区久我西出町11-21, 22, 23, 24, 25, 26, 243, 379	10/16~18	GL-0.4~0.7mで時期不明の土壌、溝、自然流路を検出。	123㎡	06NG337
115	長岡京左京三条四坊十三・十四・十五町・東京極大路跡	伏見区久我森ノ宮町11-4の一部, 11-5の一部, 11-7の一部, 11-8他	10/3, 4	中世以前の南北溝を数条確認。一部は長岡京東京極大路に関連する可能性があるため、設計変更と部分的な発掘調査を指導する。	153㎡	06NG289
116	長岡京左京七条四坊八町跡	伏見区淀桶爪町634-1他	5/10	河川護岸復旧の緊急工事に伴い、古墳時代の遺物を回収した。立会調査を指導。本文35頁。	4㎡	06NG080
117	長岡京跡・淀城跡	伏見区淀本町167(興杼神社)	4/26	境内北辺・東辺の石垣が淀城当時のものであることを確認。設計変更を指導する。	3㎡	06NG057
118	長岡京跡・淀城跡	伏見区淀木津町637-2地先~納所下野74地先	5/9	GL-1.3mで、淀城期の焼土層、溝、整地層などを確認。発掘調査を指導。	28㎡	98NG303

南・桂地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面積	受付番号
119	史跡名勝嵐山	西京区嵐山中尾下町23-5	6/30	GL-2.0mで江戸の遺構面。-2.3mで石組み遺構検出。本文29頁。	31㎡	18N07
120	唐橋遺跡	南区吉祥院御池町26・27	9/19	西高瀬川に伴う河川堆積を確認。GL-1.2cmで地山検出。	22㎡	06S267
121	上久世遺跡	南区久世上久世町387-2, 389-1, 389-6	10/26	GL-0.7~0.8mで地山。時期不明の溝、土壌等を検出。	45㎡	06S305
122	中久世遺跡	南区久世殿城町221, 222, 225-1, 227-1, 232-1の各一部, 227-2, 229, 249, 250, 市有地	8/8	No. 21の再試掘。下久世の構えの西縁堀の推定地であるが、痕跡認められず。本文25頁。	9㎡	05S572
123	中久世遺跡・大藪遺跡	南区久世大藪町156-2他	10/12, 13	敷地の南端で土壌・柱穴・溝などを検出。発掘調査を指導する。	210㎡	06S324

表3 遺物概要表

	Aランク点数(箱数)	内容	Bランク箱数	Cランク箱数	出土箱数合計
点数及び箱数	271点(8箱)	弥生土器2点, 土師器174点, 須恵器35点, 黒色土器1点, 緑釉陶器8点, 陶磁器10点, 白磁1点, 瓦器10点, 瓦27点, 石器1点, 銭貨2点	15箱	23箱	46箱

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないせきしくつちょうさほうこく							
書名	京都市内遺跡試掘調査報告 平成18年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	長谷川行孝・馬瀬智光・堀 大輔・宇野隆志							
編集機関	京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課							
所在地	〒 606- 8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13 京都館内							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒 604- 8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488							
発行年月日	西暦2007年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m	調査原因
		市 町 村	遺跡番号					
へいあん ぎやう ちゆう せき 平安宮跡 中務省北隣接地	きょうとふくしゅうくわいしやうくわいせき 京都府京都市上京区下立売通 千本東入中務町486-129	26100		35度 1分 7秒	135度 44分 41秒	2006/4/21	18	共同住宅
へいあんぎやう ちゆう せき 平安京左京 八条二坊五町跡	きょうとふくしゅうくわいせき 京都府京都市南区西九条 戒光寺町2-4	26100		34度 59分 5秒	135度 45分 7秒	2006/1/27	28	公園整備
へいあんぎやう ちゆう せき 平安京右京 四条二坊十二町跡・ 壬生遺跡	きょうとふくしゅうくわいせき 京都府京都市右京区 西院東厚和院町30-1	26100		35度 0分 18秒	135度 43分 56秒	2006/5/17	35	店舗
あまのこ 尼吹ノ谷窟跡	きょうとふくしゅうくわいせき 京都府京都市左京区岩倉上蔵町	26100	358-03	35度 5分 0秒	135度 46分 48秒		0	自然崩壊
ふしみの 伏見城跡	きょうとふくしゅうくわいせき 京都府京都市伏見区桃山町 立売44他	26100	1172	34度 55分 56秒	135度 46分 8秒	2006/2/8,	189	共同住宅
とる 鳥羽離宮跡 鳥羽遺跡	きょうとふくしゅうくわいせき 京都府京都市伏見区竹田 西小屋ノ内町48の一部/ 中島秋ノ山町133-2	26100	1166 1167-01	34度 57分 7秒	135度 44分 46秒	2006/1/13, 3/29	35	店舗
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
平安宮跡 中務省北隣接地	宮殿跡	平安時代		土壇・井戸		土師器・須恵器・ 緑釉陶器・黒色土器		
平安京左京 八条二坊五町跡	都城跡	平安時代		溝		瓦		主要な遺構は現地保存
平安京右京 四条二坊十二町跡 壬生遺跡	都城跡 散布地	平安時代		柱穴・土壇				主要な遺構は現地保存
尼吹ノ谷窟跡	窟跡	平安時代				須恵器・緑釉陶器		
伏見城跡	平城跡	桃山時代				土師器・瓦器・瓦		
鳥羽離宮跡	離宮跡	平安時代		地業跡・池跡		天目茶碗		主要な遺構は現地保存
鳥羽遺跡	集落跡	弥生時代～飛鳥時代						

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしくつちようさほうこく							
書名	京都市内遺跡試掘調査報告 平成18年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	長谷川行孝・馬瀬智光・堀 大輔・宇野隆志							
編集機関	京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課							
所在地	〒 606- 8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13 京都会馆内							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒 604- 8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488							
発行年月日	西暦2007年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市	町					
下鳥羽遺跡	京都府京都市伏見区 竹田松林町63	26100	1170	34度 56分 39秒	135度 45分 3秒	2006/6/27	40	工場
中久世遺跡	京都府京都市南区 久世殿城町221他	26100	772	34度 57分 20秒	135度 42分 55秒	2006/3/13~ 15、8/8	181	宅地造成
史跡名勝嵐山	京都府京都市西京区 あらしやまなかおしたちよう 嵐山中尾下町23-5	26100	A809	35度 0分 19秒	135度 41分 4秒	2006/6/30	31	共同住宅
長岡京左京 一乗四坊四・五 郎土川遺跡	京都府京都市南区 くげがしつちかかわちよう 久世東土川町350-12	26100	783	34度 56分 46秒	135度 43分 18秒	2006/9/4	43	工場
長岡京左京 七条四坊八町跡	京都府京都市伏見区 あびら 780-1 淀橋爪町634-1他	26100		34度 55分 16秒	135度 43分 21秒	2006/5/10~ 9/21	572	災害復旧
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
下鳥羽遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代		焼土壇		土師器		主要な遺構は現地保存
中久世遺跡	集落跡	縄文時代晩期～室町時代		井戸跡・柱列		須恵器・瓦器・白磁		
史跡名勝嵐山	史跡・名勝			土壇・石組遺構		土師器		主要な遺構は現地保存
長岡京跡	都城跡	平安時代						主要な遺構は現地保存
東土川遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代		竪穴住居・柱・溝		弥生土器・打製石礫		
長岡京跡	都城跡	平安時代		流路伏遺構		土師器・須恵器		

圖 版

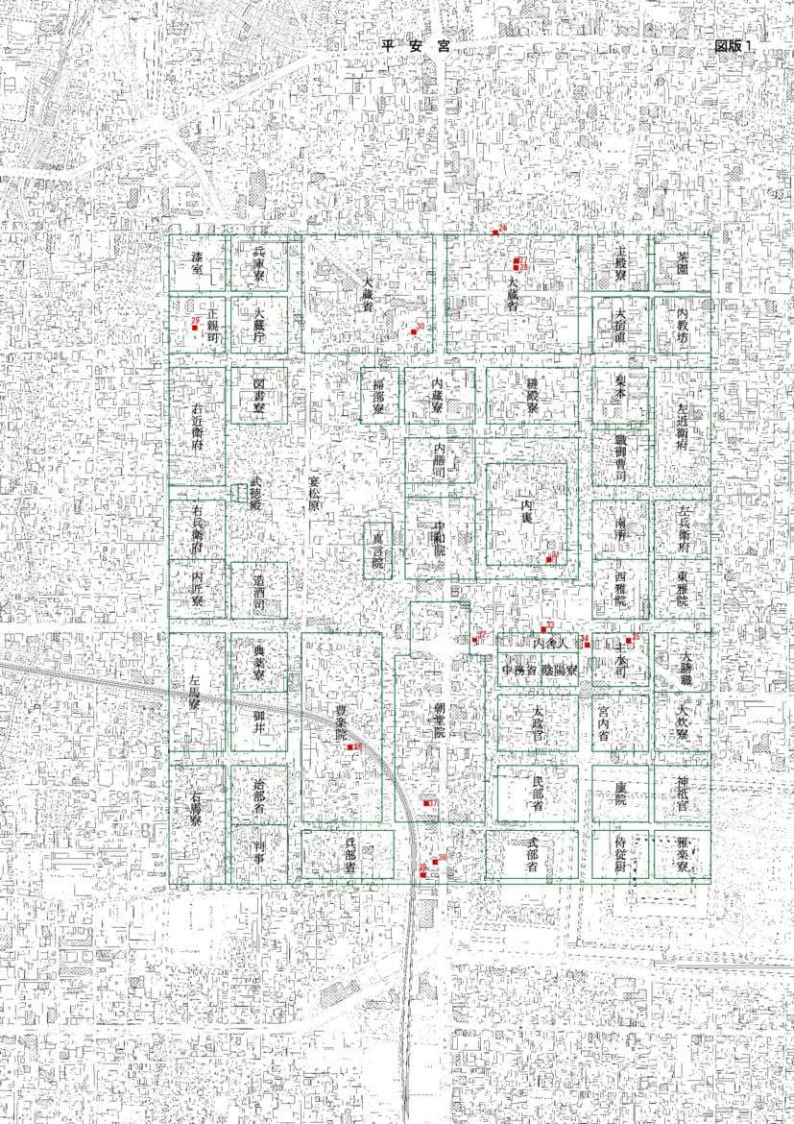
凡 例

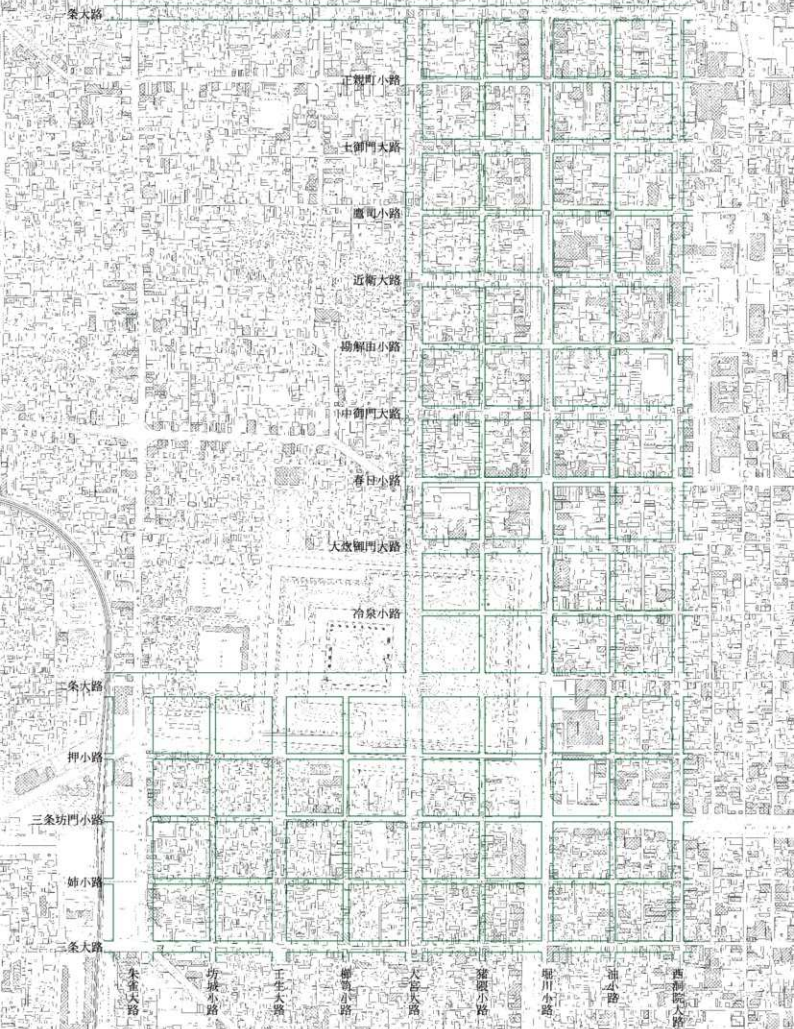
平成18年試掘調査地点

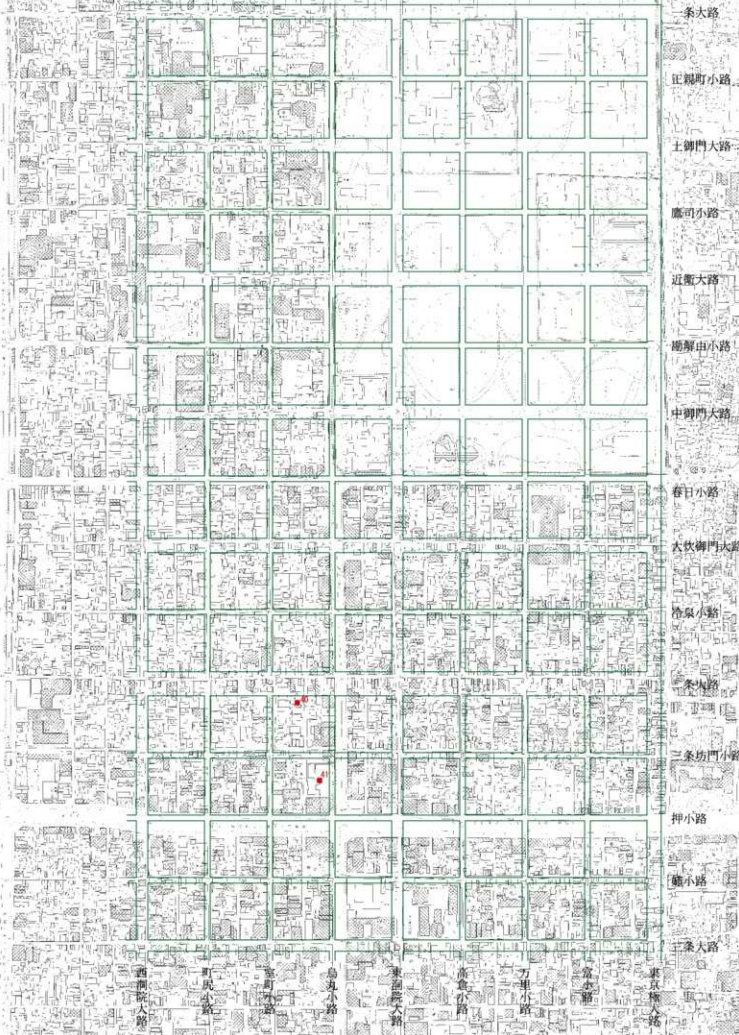
□ 1月～3月

■ 4月～12月

----- 遺跡範囲







条大路

北観町小路

土御門大路

廣司小路

近衛大路

堀解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

条大路

三条坊門小路

押小路

藤小路

三条大路

酒御殿大路

町民小路

廣司小路

烏丸小路

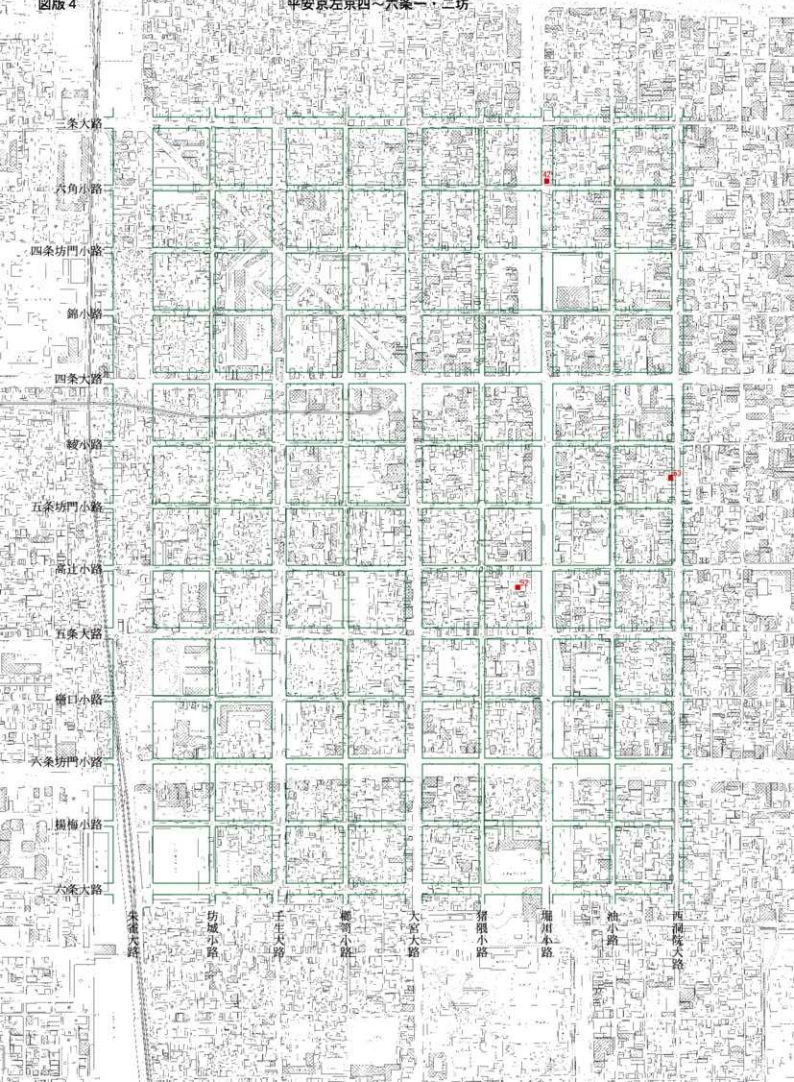
東御院大路

高倉小路

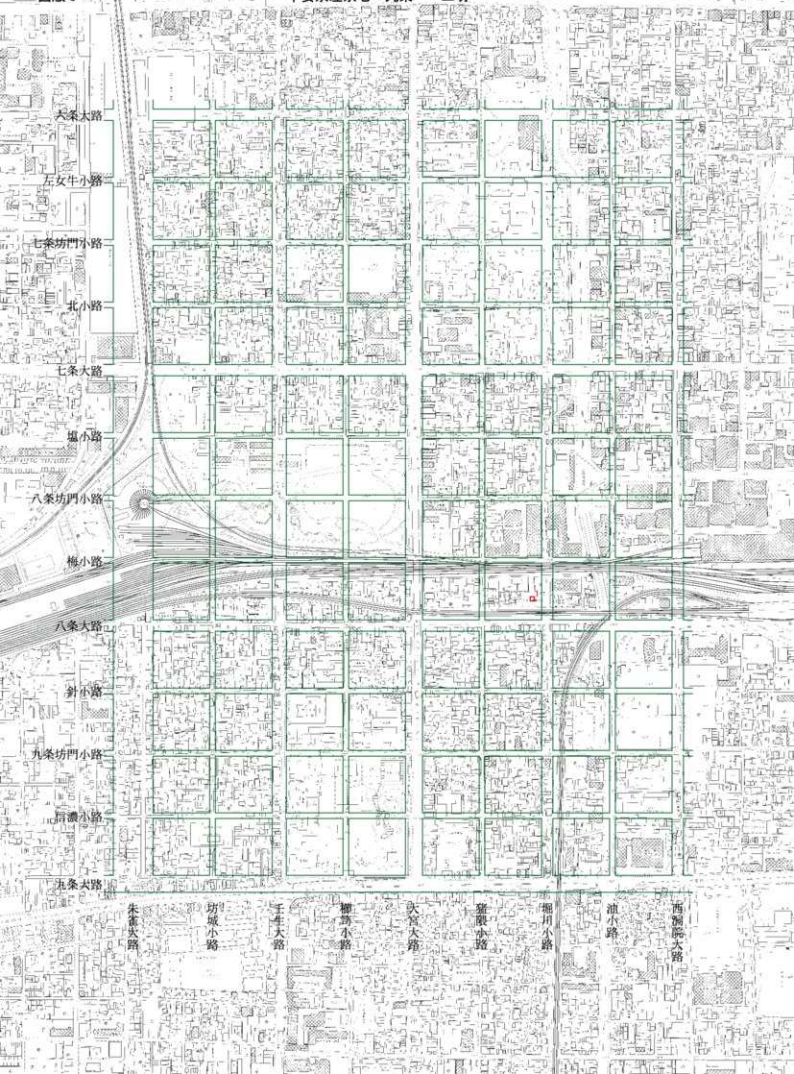
万里小路

富小路

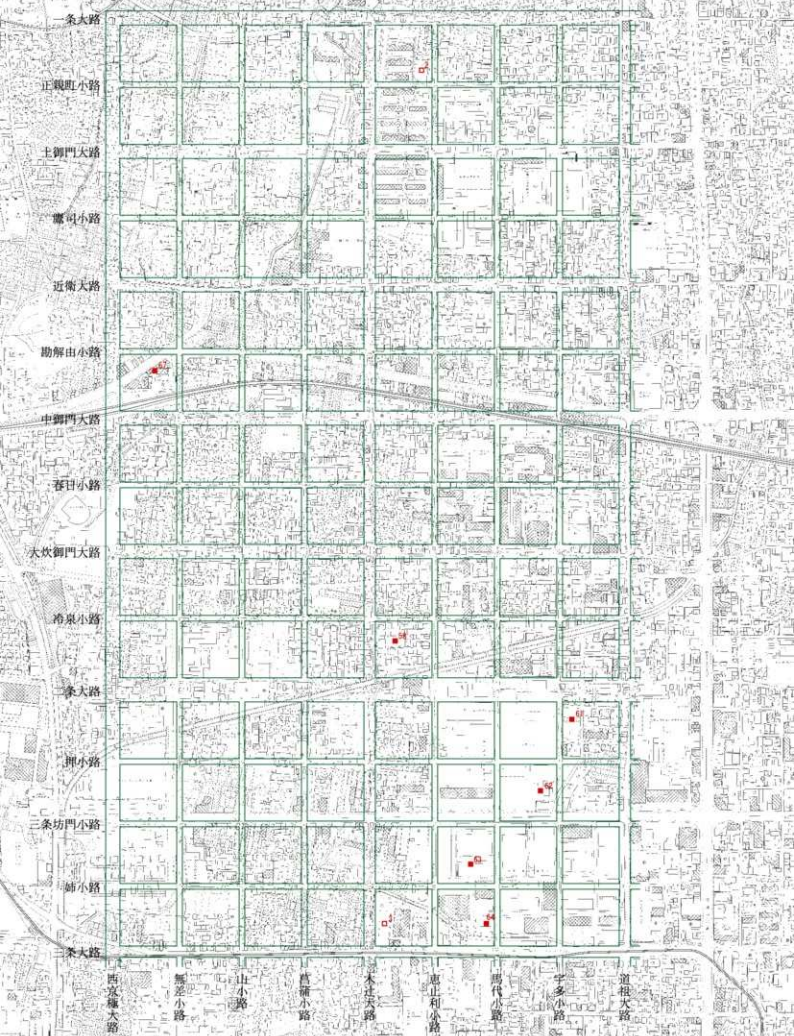
東山極大路

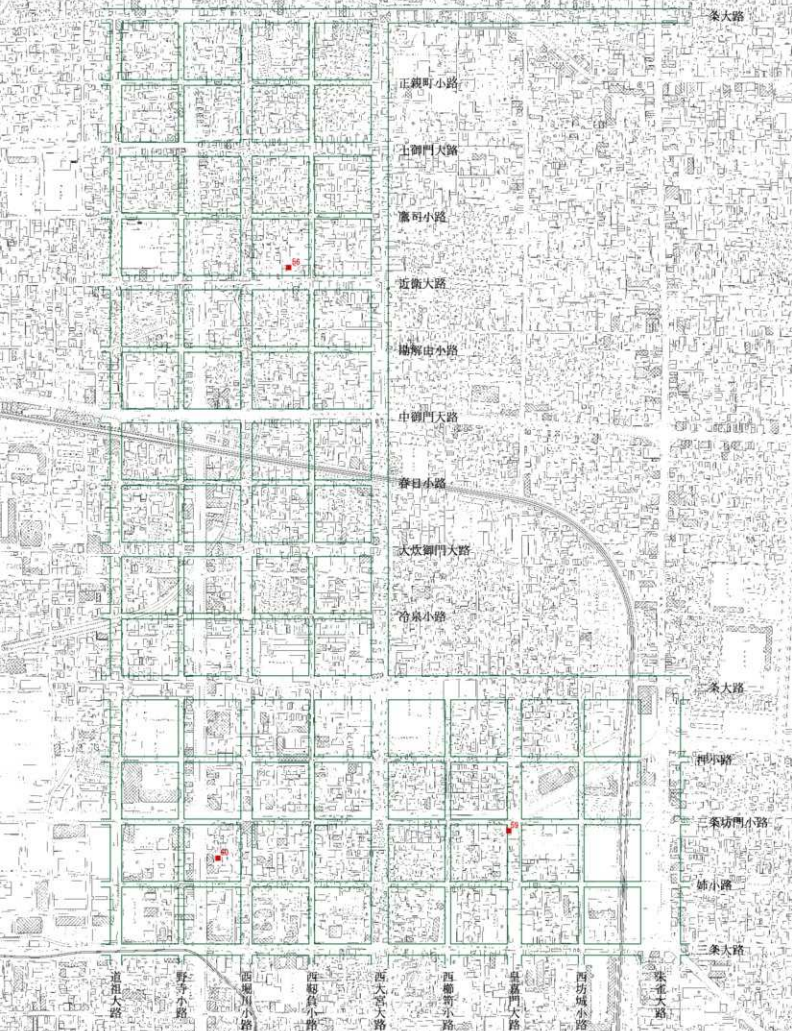


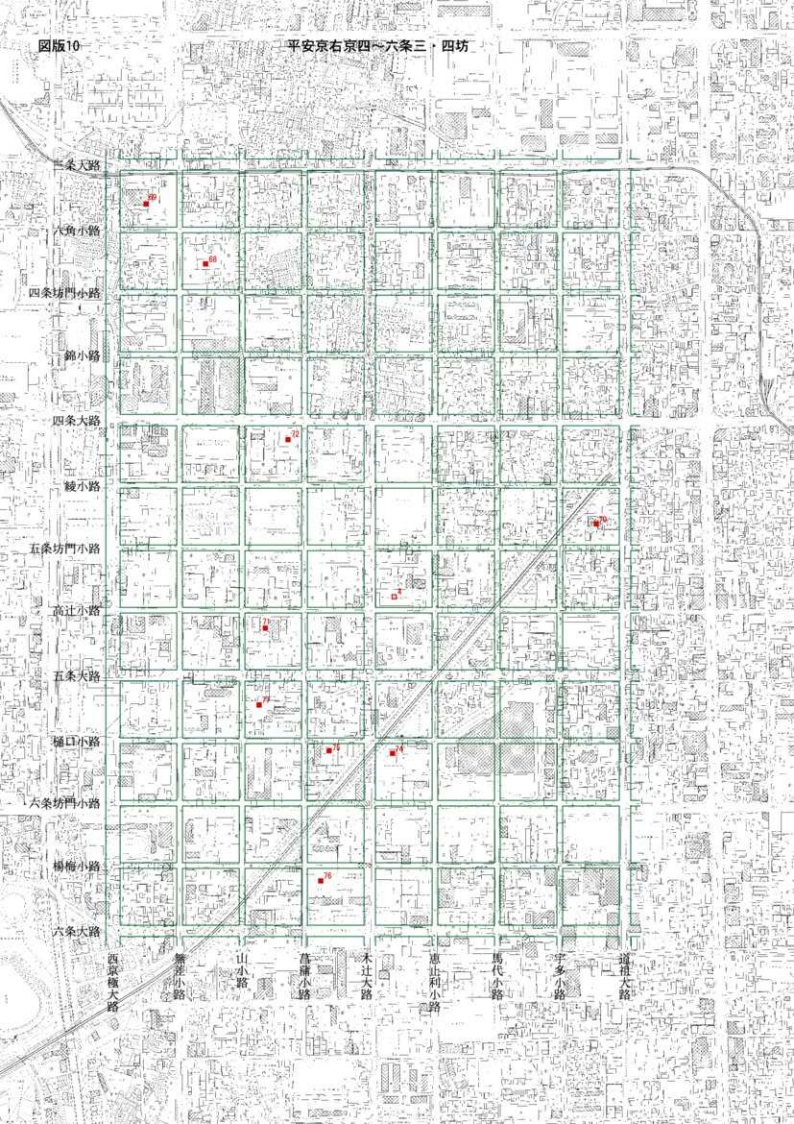


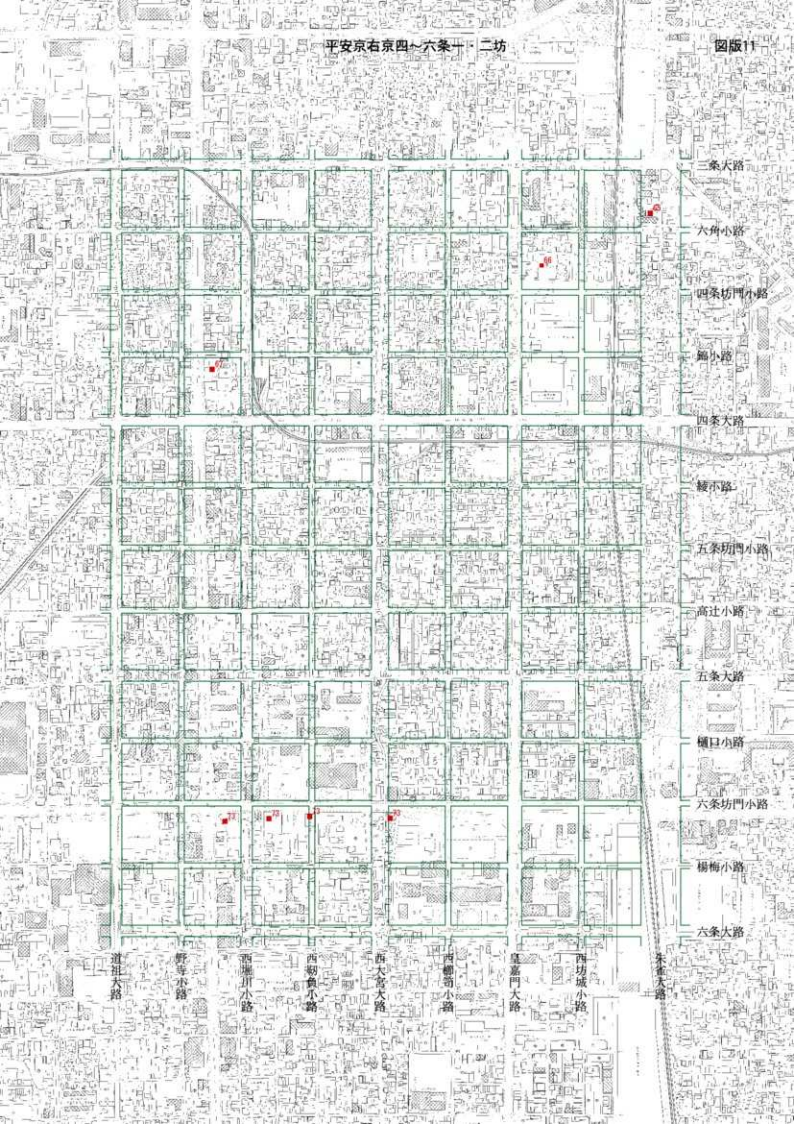












三條大路

六角小路

四條坊門小路

錦小路

四條大路

綾小路

五條坊門小路

高辻小路

五條大路

樋口小路

六條坊門小路

楊梅小路

六條大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西初島小路

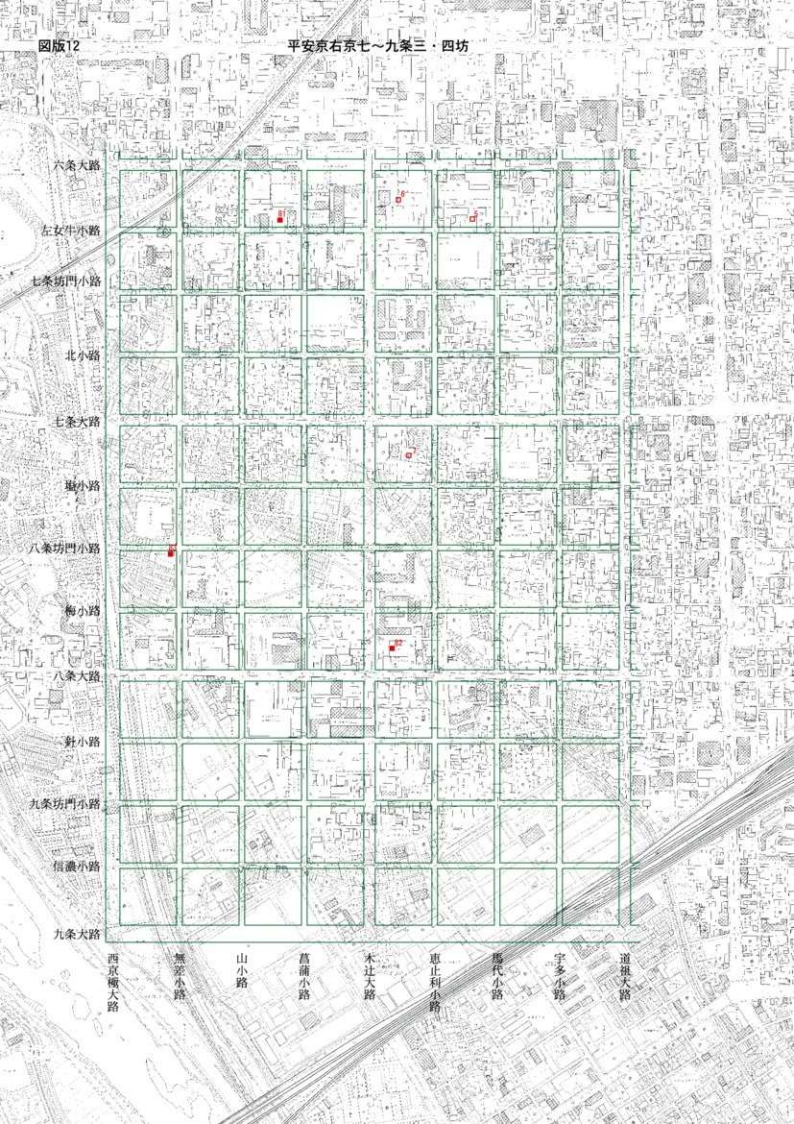
西大宮大路

西柳町小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

堀小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西京橋大路

無差小路

山小路

菖蒲小路

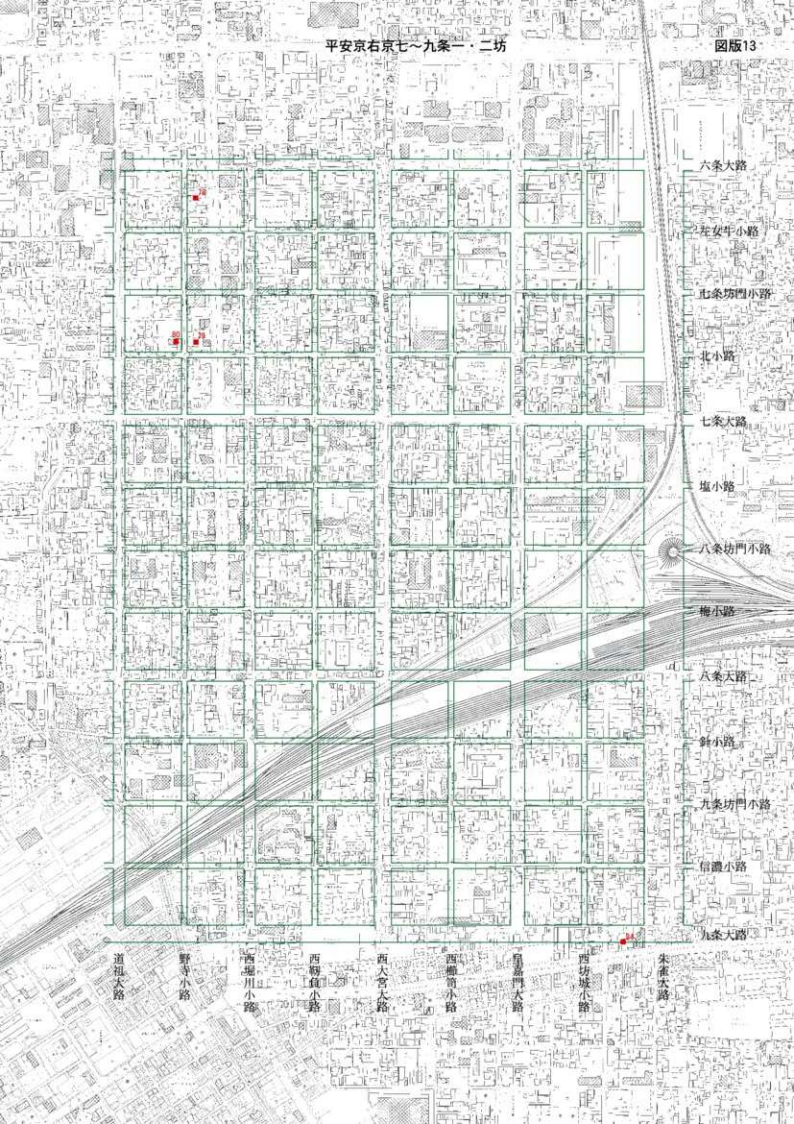
木辻大路

惠正利小路

馬代小路

宇多小路

道祖大路



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西鞠小路

西大宮大路

西藤筒小路

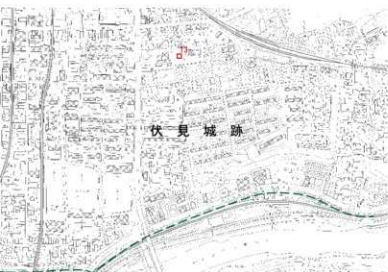
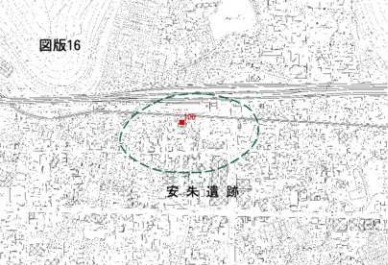
扇屋門大路

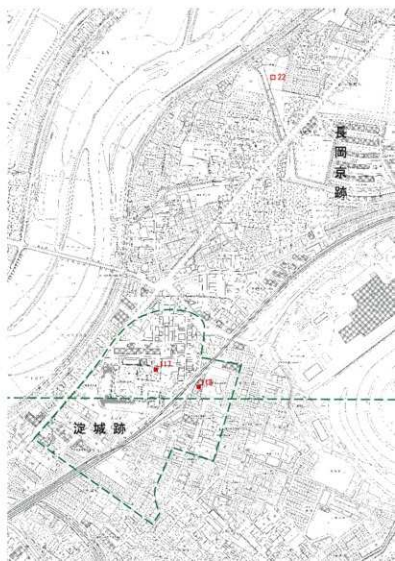
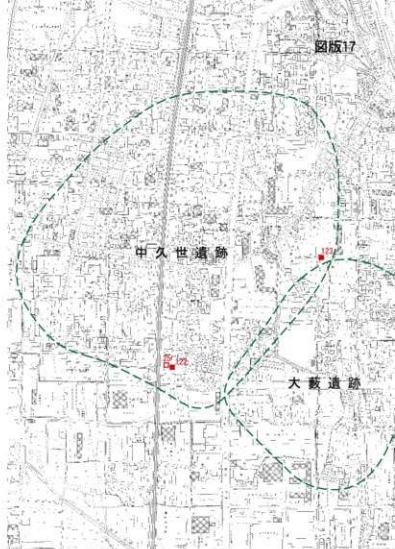
西坊城小路

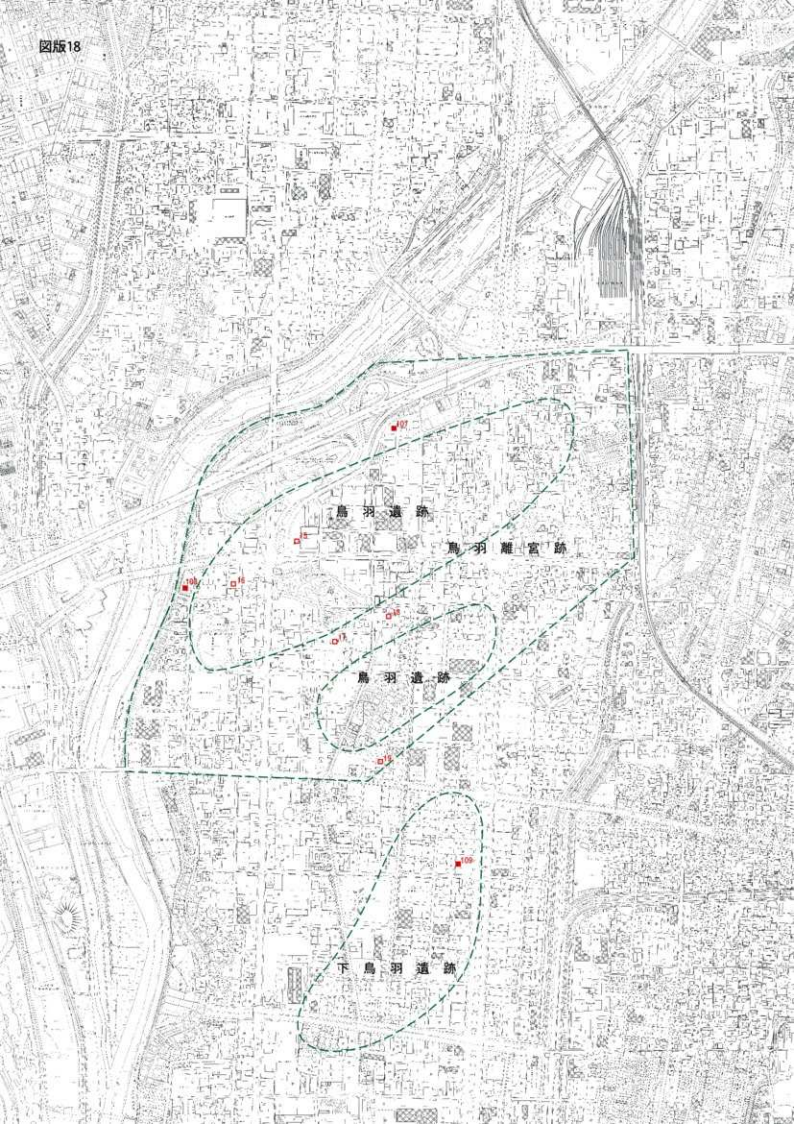
朱雀大路













長岡京跡

京都市内遺跡試掘調査報告

平成18年度

発行日 2007年3月31日
京都市印刷物 第183188号
発行 京都市文化市民局
編集 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課
住所 京都市左京区岡崎最勝寺町13
TEL.(075)761-7799
印刷 奥田印刷株式会社 TEL.(075)441-7060

